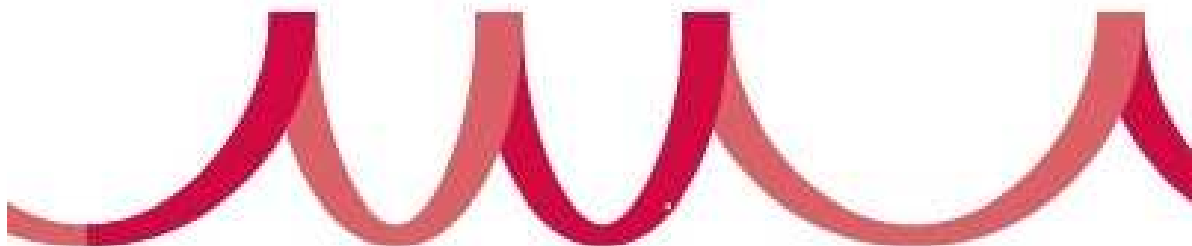


# 2025 年度 事業報告書

---



学校  
法人 日本女子大学  
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY



## 目 次

|     |                               |    |
|-----|-------------------------------|----|
| I   | 法人の概要                         | 4  |
| 1.  | 建学の精神                         | 4  |
| 2.  | 成瀬仁蔵の教育理念「三綱領」                | 4  |
| 3.  | 学校法人日本女子大学の Vision 及び Mission | 5  |
| 4.  | 学校法人日本女子大学及び日本女子大学 Tagline    | 6  |
| 5.  | 沿革                            | 7  |
| 6.  | 設置する学校等                       | 8  |
| 7.  | 当該学校の学生・生徒等数                  | 9  |
| 8.  | 役員・評議員・会計監査人・理事選任機関・教職員等の概要   | 12 |
| II  | 日本女子大学事業報告                    | 17 |
| 1.  | 教育の質の向上                       | 17 |
| 2.  | 研究の質の向上                       | 25 |
| 3.  | 社会連携・社会貢献                     | 28 |
| 4.  | 入学者の安定的な獲得                    | 31 |
| III | 日本女子大学附属高等学校事業報告              | 36 |
| 1.  | 教育の質の向上                       | 36 |
| 2.  | 入学者の安定的な獲得                    | 44 |
| IV  | 日本女子大学附属中学校事業報告               | 45 |
| 1.  | 教育の質の向上                       | 45 |
| 2.  | 入学者の安定的な獲得                    | 52 |
| V   | 日本女子大学附属豊明小学校事業報告             | 54 |
| 1.  | 教育の質の向上                       | 54 |
| 2.  | 入学者の安定的な獲得                    | 58 |
| VI  | 日本女子大学附属豊明幼稚園事業報告             | 59 |
| 1.  | 教育の質の向上                       | 59 |
| 2.  | 入学者の安定的な獲得                    | 65 |
| VII | 学校法人日本女子大学事業報告                | 67 |
| 1.  | 管理運営体制の強化                     | 67 |

|                                                   |    |
|---------------------------------------------------|----|
| 2. 財政基盤の強化                                        | 76 |
| 3. 財務の概要                                          | 84 |
| 4. 学校法人の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の<br>整備及び運用状況の概要 | 96 |
| 5. 附属明細書                                          | 97 |

## I 法人の概要

### 1. 建学の精神

#### 建学の精神

女子を人として教育すること

女子を婦人として教育すること

女子を国民として教育すること

成瀬仁蔵著『女子教育』1896 年

日本女子大学が創立された 1901（明治 34）年という時代は、あらゆる面で男女の不平等がみられ、女子の高等教育に対する一般の理解も、きわめて低い時代だった。そのような時代において、わが国で最初の組織的な女子高等教育機関である日本女子大学校を開校した成瀬仁蔵は、人格教育を基本とした女子高等教育のモデル校として、本学の発展と充実に努めた。

### 2. 成瀬仁蔵の教育理念「三綱領」

#### 教育理念「三綱領」

信念徹底

自発創生

共同奉仕

「信念徹底」－ 自己を見つめ、信念を確立する

「自発創生」－ 自発的な試みから独自性が生まれる

「共同奉仕」－ 社会との交わりが人を成長させる

学校法人日本女子大学 Vision

誰もが生涯を通して、  
学び成長し続けることができる社会を創る

学校法人日本女子大学 Mission

生涯を通し、  
楽しく学び成長できる機会を  
広く提供する

学校法人日本女子大学 Tagline

新しい明日を共に創る

日本女子大学 Tagline

私が動く、世界がひらく。

今までの当たり前に縛られることなく

判断し、挑戦できる、たしかな知性を。

だれも手を挙げない場所で

ひるまず声を上げる、凛とした勇気を。

隣にいる友人とも、言語の異なる彼らとも。

手を取り、補い合える協調性を。

そのひとつひとつが、世界をひらく力になるから。

## 5. 沿革

---

|         |                                                             |
|---------|-------------------------------------------------------------|
| 明治 33 年 | 日本女子大学校設置認可。(校長 成瀬仁蔵)                                       |
| 明治 34 年 | 日本女子大学校開校。(家政学部、国文学部、英文学部、英文予備科)<br>日本女子大学校附属高等女学校開設。       |
| 明治 37 年 | 専門学校令により私立日本女子大学校認可。                                        |
| 明治 38 年 | 財団法人日本女子大学校設立。                                              |
| 明治 39 年 | 日本女子大学校教育学部、附属豊明小学校、及び附属豊明幼稚園開設。                            |
| 大正 6 年  | 教育学部廃止、師範家政学部設置。                                            |
| 大正 10 年 | 社会事業学部設置。                                                   |
| 昭和 2 年  | 予科高等学部開校。                                                   |
| 昭和 5 年  | 大学本科開校。                                                     |
| 昭和 6 年  | 家政学部第一類、師範家政学部を家政学部第二類とする。                                  |
| 昭和 8 年  | 社会事業学部を廃止、家政学部第三類とする。                                       |
| 昭和 18 年 | 国文学部、英文学部、西生田校舎に移転。                                         |
| 昭和 22 年 | 日本女子大学校附属中学校(新制)開設。                                         |
| 昭和 23 年 | 日本女子大学(新制)設置認可。<br>日本女子大学附属高等学校(新制高等学校)開設。<br>日本女子大学(新制)発足。 |
| 昭和 24 年 | 日本女子大学家政学部通信講座大学通信教育開講。                                     |
| 昭和 25 年 | 日本女子大学通信教育部設置認可。                                            |
| 昭和 35 年 | 附属高等学校目白校を廃し、西生田校に統合。                                       |
| 昭和 36 年 | 日本女子大学大学院家政学研究科設置。                                          |
| 昭和 41 年 | 日本女子大学大学院文学研究科設置。                                           |
| 昭和 53 年 | 附属中学校〔目白地区〕を廃し、西生田地区統合新校舎に移設。                               |
| 平成 2 年  | 人間社会学部を西生田校地に設置。                                            |
| 平成 4 年  | 理学部設置。<br>大学院人間生活学研究科設置。                                    |
| 平成 6 年  | 大学院人間社会研究科設置。                                               |
| 平成 8 年  | 大学院理学研究科設置。                                                 |
| 平成 19 年 | 大学院家政学研究科通信教育課程家政学専攻修士課程設置。                                 |
| 令和 3 年  | 人間社会学部及び人間社会研究科が目白キャンパスに移転。                                 |
| 令和 5 年  | 国際文化学部設置。                                                   |
| 令和 6 年  | 建築デザイン学部及び大学院建築デザイン研究科設置。                                   |
| 令和 7 年  | 食科学部及び食科学部通信教育課程設置                                          |

## 6. 設置する学校等

---

### (1) 日本女子大学

大学院

家政学研究科 文学研究科 人間生活学研究科

人間社会研究科 理学研究科 建築デザイン研究科

家政学部

児童学科 食物学科 (学生募集停止) 住居学科 (学生募集停止)

被服学科 家政経済学科

通信教育課程

児童学科 食物学科 (学生募集停止) 生活芸術学科 (学生募集停止)

文学部

日本文学科 英文学科 史学科

人間社会学部

現代社会学科 社会福祉学科 教育学科 心理学科

文化学科 (学生募集停止)

理学部

数物情報科学科 化学生命科学科

国際文化学部

国際文化学科

建築デザイン学部

建築デザイン学科

食科学部

食科学科 栄養学科

通信教育課程

食科学科

### (2) 日本女子大学附属高等学校 全日制課程 普通科

### (3) 日本女子大学附属中学校

### (4) 日本女子大学附属豊明小学校

### (5) 日本女子大学附属豊明幼稚園

### (6) 附属機関等

図書館、成瀬記念館、総合研究所、現代女性キャリア研究所、JWU 女子高等教育センター、社会連携教育センター、教職教育開発センター、生涯学習センター、メディアセンター、カウンセリングセンター、保健管理センター、さくらナースリー (休止)

7. 当該学校の学生・生徒等数

(1) 日本女子大学

〔大学院〕

(単位：人)

|                    | 専攻          | 入学定員 | 入学者数※ | 収容定員(A) | 在籍者数(B) | 収容定員充足率(B/A) |
|--------------------|-------------|------|-------|---------|---------|--------------|
| 家政学研究科<br>修士課程     | 児童学専攻       | 10   | 11    | 20      | 17      | 0.85         |
|                    | 食物・栄養学専攻    | 10   | 14    | 20      | 23      | 1.15         |
|                    | 住居学専攻       | －    | －     | －       | 1       | －            |
|                    | 被服学専攻       | 10   | 3     | 20      | 11      | 0.55         |
|                    | 生活経済専攻      | 8    | 0     | 16      | 3       | 0.19         |
|                    | 小計          | 38   | 28    | 76      | 55      | 0.72         |
| 文学研究科<br>博士課程前期    | 日本文学専攻      | 10   | 4     | 20      | 9       | 0.45         |
|                    | 英文学専攻       | 10   | 3     | 20      | 6       | 0.30         |
|                    | 史学専攻        | 6    | 4     | 12      | 8       | 0.67         |
|                    | 小計          | 26   | 11    | 52      | 23      | 0.44         |
| 文学研究科<br>博士課程後期    | 日本文学専攻      | 3    | 0     | 9       | 2       | 0.22         |
|                    | 英文学専攻       | 3    | 4     | 9       | 7       | 0.78         |
|                    | 史学専攻        | 3    | 0     | 9       | 2       | 0.22         |
|                    | 小計          | 9    | 4     | 27      | 11      | 0.41         |
| 人間生活学研究科<br>博士課程後期 | 人間発達学専攻     | 5    | 0     | 15      | 7       | 0.47         |
|                    | 生活環境学専攻     | 5    | 1     | 15      | 11      | 0.73         |
|                    | 小計          | 10   | 1     | 30      | 18      | 0.60         |
| 人間社会研究科<br>博士課程前期  | 社会福祉学専攻     | 10   | 5     | 20      | 8       | 0.40         |
|                    | 教育学専攻       | 10   | 3     | 20      | 4       | 0.20         |
|                    | 現代社会論専攻     | 10   | 3     | 20      | 5       | 0.25         |
|                    | 心理学専攻       | 14   | 12    | 28      | 22      | 0.79         |
|                    | 関連文化論専攻     | 6    | 2     | 12      | 4       | 0.33         |
|                    | 小計          | 50   | 25    | 100     | 43      | 0.43         |
| 人間社会研究科<br>博士課程後期  | 社会福祉学専攻     | 3    | 2     | 9       | 9       | 1.00         |
|                    | 教育学専攻       | 3    | 3     | 9       | 5       | 0.56         |
|                    | 現代社会論専攻     | 3    | 0     | 9       | 3       | 0.33         |
|                    | 心理学専攻       | 3    | 3     | 9       | 8       | 0.89         |
|                    | 関連文化論専攻     | 3    | 0     | 9       | 2       | 0.22         |
|                    | 小計          | 15   | 8     | 45      | 27      | 0.60         |
| 理学研究科<br>博士課程前期    | 数理・物性構造科学専攻 | 10   | 15    | 20      | 30      | 1.50         |
|                    | 物質・生物機能科学専攻 | 10   | 17    | 20      | 31      | 1.55         |
|                    | 小計          | 20   | 32    | 40      | 61      | 1.53         |
| 理学研究科<br>博士課程後期    | 数理・物性構造科学専攻 | 3    | 1     | 9       | 5       | 0.56         |
|                    | 物質・生物機能科学専攻 | 3    | 1     | 9       | 1       | 0.11         |
|                    | 小計          | 6    | 2     | 18      | 6       | 0.33         |
| 建築デザイン研究科<br>修士課程  | 建築デザイン専攻    | 20   | 26    | 40      | 51      | 1.28         |
|                    | 小計          | 20   | 26    | 40      | 51      | 1.28         |
| 合計                 |             | 194  | 137   | 428     | 295     | 0.69         |

〔学部・通学課程〕

(単位：人)

| 学 部      | 学 科                | 入学<br>定員 | 入学<br>者数※ | 収容<br>定員<br>(A) | 在籍<br>者数<br>(B) | 収容定員<br>充足率<br>(B/A) |
|----------|--------------------|----------|-----------|-----------------|-----------------|----------------------|
| 家政学部     | 児童学科               | 97       | 93        | 388             | 400             | 1.03                 |
|          | 食物学科<br>食物学専攻      | －        | －         | 93              | 97              | 1.04                 |
|          | 食物学科<br>管理栄養士専攻    | －        | －         | 150             | 141             | 0.94                 |
| 家政学部     | 住居学科<br>居住環境デザイン専攻 | －        | －         | 110             | 106             | 0.96                 |
|          | 住居学科<br>建築デザイン専攻   | －        | －         | 74              | 83              | 1.12                 |
|          | 被服学科               | 85       | 90        | 361             | 388             | 1.08                 |
|          | 家政経済学科             | 85       | 83        | 340             | 343             | 1.01                 |
|          | 小 計                | 267      | 266       | 1,516           | 1,558           | 1.03                 |
| 文学部      | 日本文学科              | 126      | 144       | 520             | 565             | 1.09                 |
|          | 英文学科               | 130      | 152       | 568             | 579             | 1.02                 |
|          | 史学科                | 97       | 84        | 388             | 425             | 1.10                 |
|          | 小 計                | 353      | 380       | 1,476           | 1,569           | 1.06                 |
| 人間社会学部   | 現代社会学科             | 105      | 101       | 396             | 391             | 0.99                 |
|          | 社会福祉学科             | 97       | 100       | 388             | 401             | 1.03                 |
|          | 教育学科               | 97       | 105       | 388             | 403             | 1.04                 |
|          | 心理学科               | 81       | 76        | 300             | 303             | 1.01                 |
|          | 文化学科               | －        | －         | 121             | 127             | 1.05                 |
|          | 小 計                | 380      | 382       | 1,593           | 1,625           | 1.02                 |
| 理学部      | 数物情報科学科            | 92       | 92        | 368             | 381             | 1.04                 |
|          | 化学生命科学科            | 97       | 93        | 388             | 371             | 0.96                 |
|          | 小 計                | 189      | 185       | 756             | 752             | 1.00                 |
| 国際文化学部   | 国際文化学科             | 121      | 118       | 363             | 360             | 0.99                 |
|          | 小 計                | 121      | 118       | 363             | 360             | 0.99                 |
| 建築デザイン学部 | 建築デザイン学科           | 100      | 111       | 200             | 205             | 1.03                 |
|          | 小 計                | 100      | 111       | 200             | 205             | 1.03                 |
| 食科学部     | 食科学科               | 38       | 38        | 38              | 38              | 1.00                 |
|          | 栄養学科               | 50       | 46        | 50              | 46              | 0.92                 |
|          | 小 計                | 88       | 84        | 88              | 84              | 0.96                 |
| 合 計      |                    | 1,498    | 1,526     | 5,992           | 6,153           | 1.03                 |

## 〔通信教育課程〕

(単位：人)

| 学 部            | 学 科    | 入学定員 | 入学者数 | 収容定員  | 在籍者数  |
|----------------|--------|------|------|-------|-------|
| 家政学部<br>通信教育課程 | 児童学科   | 40   | 66   | 3,200 | 384   |
|                | 食物学科   | －    | －    | 3,000 | 374   |
|                | 生活芸術学科 | －    | －    | 2,000 | 374   |
|                | 小 計    | 40   | 66   | 8,200 | 1,132 |
| 食科学部<br>通信教育課程 | 食科学科   | 40   | 127  | 120   | 127   |
|                | 小 計    | 40   | 127  | 120   | 127   |
| 合 計            |        | 80   | 193  | 8,320 | 1,259 |

## (2) 日本女子大学附属校・園

(単位：人)

|         | 入学定員 | 入学者数※ | 収容定員  | 在籍者数  |
|---------|------|-------|-------|-------|
| 附属高等学校  | 368  | 379   | 1,104 | 1,105 |
| 附属中学校   | 252  | 252   | 756   | 742   |
| 附属豊明小学校 | 114  | 113   | 684   | 666   |
| 附属豊明幼稚園 | 84   | 83    | 252   | 230   |

(注) 人数はいずれも 2026 年 3 月 1 日現在。(ただし、※は 2025 年 5 月 1 日現在の在籍者数)

8. 役員・評議員・会計監査人・理事選任機関・役員賠償責任保険・教職員等の概要

(1) 理事の概要 (2026 年 3 月 31 日現在)

定員：10 名以上 19 名以内 現員：12 名

| 役職                            | 氏名      | 就任日                           | 常勤・非常勤 | 現職等                                 |
|-------------------------------|---------|-------------------------------|--------|-------------------------------------|
| 理事長                           | 今 市 涼 子 | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 常勤     | 日本女子大学名誉教授                          |
| 副理事長（代表<br>業務執行理事）            | 篠 原 聡 子 | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 常勤     | 学長、建築デザイン学科教授                       |
| 常勤理事（財務<br>担当・業務執行<br>理事）     | 伊ヶ崎 大 理 | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 常勤     | 家政経済学科教授                            |
| 常勤理事（附属<br>校園運営担当・<br>業務執行理事） | エディ 操   | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 常勤     | 特定非営利活動法人（認定 NPO 法人）ジャパン・プラットフォーム理事 |
| 理事                            | 石 田 好 江 | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 非常勤    | 愛知淑徳大学名誉教授                          |
| 理事                            | 石 原 修   | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 非常勤    | 弁護士                                 |
| 理事                            | 岡 本 宏 一 | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 常勤     | 事務局長                                |
| 理事                            | 加 藤 玄   | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 常勤     | 文学部長、史学科教授                          |
| 理事                            | 工 藤 稔   | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 非常勤    | 大同生命保険株式会社顧問                        |
| 理事                            | 高 野 晴 代 | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 非常勤    | （一社）日本女子大学教育文化振興桜楓会理事長              |
| 理事                            | 永 田 典 子 | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 常勤     | 副学長、化学生命科学科教授                       |
| 理事                            | 野 中 友規子 | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 常勤     | 附属中学校長                              |

(2) 監事の概要 (2026 年 3 月 31 日現在)

定員：2 名以上 3 名以内 現員：3 名

| 役職   | 氏名   | 就任日                           | 常勤・非常勤 | 現職等        |
|------|------|-------------------------------|--------|------------|
| 常勤監事 | 増子富美 | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 常勤     | 日本女子大学名誉教授 |
| 監事   | 田中信行 | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 非常勤    | 公認会計士      |
| 監事   | 吉田秀康 | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 非常勤    | 弁護士        |

(3) 評議員の概要 (2026 年 3 月 31 日現在)

定員：15 名以上 24 名以内

| 役職  | 氏名     | 就任日                           | 現職等                                      |
|-----|--------|-------------------------------|------------------------------------------|
| 評議員 | 石渡 廣一  | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 株式会社よしもとデベロップメント取締役                      |
| 評議員 | 内海 旬子  | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン海外事業部中東・東欧地域マネジャー   |
| 評議員 | 遠藤 恵司  | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 株式会社ビームス最高顧問                             |
| 評議員 | 大石 静   | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 脚本家                                      |
| 評議員 | 奥村 幸子  | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 数物情報科学科教授                                |
| 評議員 | 奥森 清喜  | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 株式会社日建設計 取締役常務執行役員都市・社会基盤部門統括            |
| 評議員 | 久住 真紀子 | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 東急株式会社 都市開発本部 都市戦略事業室 建築技術グループ建築リレーション担当 |
| 評議員 | 黒寄 隆   | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 弁護士法人フロンティア法律事務所代表社員弁護士                  |

| 役職  | 氏名     | 就任日                           | 現職等                        |
|-----|--------|-------------------------------|----------------------------|
| 評議員 | 小堀 洋美  | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 東京都市大学客員教授                 |
| 評議員 | 小室 淑恵  | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 株式会社ワーク・ライフ<br>バランス代表取締役社長 |
| 評議員 | 坂井 辰史  | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 株式会社みずほフィナン<br>シャルグループ特別顧問 |
| 評議員 | 佐藤 和哉  | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 英文学科教授                     |
| 評議員 | 竹村 雅美  | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 総務部長                       |
| 評議員 | 中田 大成  | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 附属高等学校長                    |
| 評議員 | 藤谷 茂樹  | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 国立大学法人東京科学大<br>学監事（常勤）     |
| 評議員 | 堀越 栄子  | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 一般社団法人日本ケアラ<br>ー連盟代表理事     |
| 評議員 | 宮城 和彦  | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 附属豊明小学校長                   |
| 評議員 | 吉岡 しのぶ | 2025 年 6 月 24 日定時<br>評議員会終結の時 | 附属豊明幼稚園長                   |

（４）会計監査人の概要（2026 年 3 月 31 日現在）

定員：1 名 現員：1 名

| 役職    | 名称     | 就任日                       |
|-------|--------|---------------------------|
| 会計監査人 | 仰星監査法人 | 2025 年 6 月 24 日定時評議員会終結の時 |

（５）理事選任機関の概要

| 理事選任機関 | 構成員     | 選任対象者                             |
|--------|---------|-----------------------------------|
| 理事会    | すべての理事  | 寄附行為第 7 条第 1 項第一号及び第二号に<br>規定する理事 |
| 評議員会   | すべての評議員 | 寄附行為第 7 条第 1 項第三号に規定する理<br>事      |

## (6) 役員賠償責任保険

本法人は、役員賠償責任保険を、以下のとおり保険会社との間で締結している。

### ①対象者（被保険者）

理事、監事、評議員、会計監査人※

### ②補償概要

被保険者がその地位に基づいて被保険者がその地位に基づいて行った行為に起因して、第三者もしくは法人から損害賠償請求された場合の法律上の損害賠償金および争訟費用を補償する。

### ③保険期間

2025年1月1日～2026年1月1日、2026年1月1日～2027年1月1日

### ④支払限度額

5億円

※会計監査人は③保険期間 2026年1月1日～2027年1月1日が対象

## (7) 教員（2026年3月1日現在）

〔大学教員〕

（単位：人）

|          | 教授  | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 | 専任教員数 | 兼任教員数 |
|----------|-----|-----|----|----|----|-------|-------|
| 家政学部     | 22  | 10  | 3  | 4  | 6  | 45    | 104   |
| 文学部      | 27  | 14  | 1  | 5  | 3  | 50    | 222   |
| 人間社会学部   | 36  | 11  | 1  | 10 | 0  | 58    | 156   |
| 理学部      | 23  | 5   | 3  | 4  | 7  | 42    | 81    |
| 国際文化学部   | 10  | 4   | 1  | 2  | 0  | 17    | 66    |
| 建築デザイン学部 | 10  | 2   | 0  | 2  | 3  | 17    | 67    |
| 食科学部     | 9   | 5   | 2  | 6  | 3  | 25    | 69    |
| 保健管理センター | 0   | 1   | 0  | 0  | 0  | 1     | 0     |
| 合 計      | 137 | 52  | 11 | 33 | 22 | 255   | 765   |

〔附属校・園教員〕

（単位：人）

|         | 専任教諭 | 非常勤講師 |
|---------|------|-------|
| 附属高等学校  | 51   | 35    |
| 附属中学校   | 37   | 21    |
| 附属豊明小学校 | 33   | 10    |
| 附属豊明幼稚園 | 15   | 1     |
| 合 計     | 136  | 67    |

## 研究員

専任研究員 2名

## (8) 職員（2026年3月1日現在）

専任職員 167名

非常勤職員 369名（派遣職員を含む）

「事業報告書」では、中期計画（2024～2030 年度）及び単年度の事業計画に対応する項目について達成状況及び各計画に対する評価（進捗度）を記載しております。

【本報告書での表記の仕方】

1. 教育の質の向上

（1）特色ある教育を実現するための学部・学科（通信教育課程を含む）の再編

| 中期計画 行動目標                                             |      | 2025 年度事業計画                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①2030 年度までの再編計画の決定                                    | 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2024 年度に策定した「学部・学科再編の全体構想及び 2030 年度までの開設学部・学科及び開設時期」に沿い、2028 年度開設事案について、2025 年 12 月までに理事会の承認を得て、学外に公表する。</li> <li>・2029 年度以降の開設事案については準備が整い次第、順次、理事会において承認を得て、学内に公表する。</li> </ul>                              |
|                                                       | 活動概要 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部・学科再編検討委員会（以下、委員会）が設置する WG を主体に学内調整を進める。</li> <li>・9 月までに委員会での検討を経て、10 月理事会（協議）、12 月理事会（承認）を目指す。</li> <li>・理事会承認後、広報のタイミングを踏まえて速やかに学外公開する。</li> <li>・2029 年度以降の個別事案については学内の状況に応じつつ速やかに進捗させることとする。</li> </ul> |
| 2024 年度中に学部・学科再編の全体構想を立て、2030 年度までの学部・学科再編計画・構想を決定する。 | 達成状況 | 2025 年度事業報告                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                                       |      | <p>2028 年度開設予定の「人間科学部（仮称）」及び「ファッションデザイン学部（仮称）」について、理事会で設置が承認され、プレスリリースにより公表した。また、2029 年度開設予定学部について、理事会で設置が承認された。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：80%</p> <p>2029 年度までの学部設置は学内意思決定が完了し、その後の再編計画は進行中であるため。</p>                         |



中期計画【2024.4～2030.3】

中期(7 年)の観点で、現状と課題を分析した上で、7 か年の間に達成を目指す具体的な行動目標を示している。

事業計画【2025.4～2026.3】

短期(1 年)の観点で、中期計画を遂行するための具体的な年度計画を示している。

事業報告【2025.4～2026.3】

事業計画で策定した事項につき、取り組みの結果を記載するとともに、単年度の事業計画及び中期計画に対する進捗度を示している。

達成度が 100%でない場合はその理由も記載している。

## Ⅱ 日本女子大学事業報告

### 1. 教育の質の向上

#### (1) 特色ある教育を実現するための学部・学科（通信教育課程を含む）の再編

| 中期計画 行動目標                                                                                                          | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>①2030 年度までの再編計画の決定</p> <p>2024 年度中に学部・学科再編の全体構想を立て、2030 年度までの学部・学科再編計画・構想を決定する。</p>                             | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2024 年度に策定した「学部・学科再編の全体構想及び 2030 年度までの開設学部・学科及び開設時期」に沿い、2028 年度開設事案について、2025 年 12 月までに理事会の承認を得て、学外に公表する。</li> <li>・2029 年度以降の開設事案については準備が整い次第、順次、理事会において承認を得て、学内に公表する。</li> </ul>                              |
|                                                                                                                    | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部・学科再編検討委員会（以下、委員会）が設置する WG を主体に学内調整を進める。</li> <li>・9 月までに委員会での検討を経て、10 月理事会（協議）、12 月理事会（承認）を目指す。</li> <li>・理事会承認後、広報のタイミングを踏まえて速やかに学外公開する。</li> <li>・2029 年度以降の個別事案については学内の状況に応じつつ速やかに進捗させることとする。</li> </ul> |
|                                                                                                                    | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <p>②通信教育における新たな学位プログラムの展開と IT 化の推進</p> <p>デジタルネイティブ世代、及び社会人のリスクリング等、社会と時代の要請に対応できる通信教育を展開するため、デジタル化・IT 化を推進する。</p> | 達成状況        | <p>2028 年度開設予定の「人間科学部（仮称）」及び「ファッションデザイン学部（仮称）」について、理事会で設置が承認され、プレスリリースにより公表した。また、2029 年度開設予定学部について、理事会で設置が承認された。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：80%</p> <p>2029 年度までの学部設置は学内意思決定が完了し、その後の再編計画は進行中であるため。</p>                         |
|                                                                                                                    | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、新たな学位プログラムに関する情報収集、調査、分析を行い、新設の可能性について答申をまとめる。</li> </ul>                                                                                                                                                 |
|                                                                                                                    | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期：検討材料について、学内外からの収集に充てる</li> <li>・後期：収集した情報を基に実現可能なプログラム等内容案の抽出、スケジュール案作成などを進め、年度内に答申する</li> <li>・テキスト科目、面接授業からメディア授業を増やすよう学科に依頼し、2026 年度授業科目表に反映させる。</li> </ul>                                              |

|                                                                           |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|---------------------------------------------------------------------------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>具体的には、オンライン授業及びオンデマンド授業の活用・拡大や、科目修了試験のオンライン実施等、デジタル技術を活用した教育を提供する。</p> |             | <p>・会場試験を中止することへの課題等及びスケジュール案を作成し、学務委員会で承認を得る。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|                                                                           | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|                                                                           |             | <p>・外部有識者のヒアリング、Web によるニーズ調査等を実施して情報収集・整理を進めつつ、学部・学科再編検討委員会の下に WG を設置し、新たな学位プログラムに関する答申をまとめ、理事会で承認された。</p> <p>・新たな通信教育課程のあり方について、シニアアドバイザーとともに独立型の通信教育課程案を検討した。</p> <p>・2026 年度授業科目表においては、通信教育課程全体で 8 科目を面接授業から遠隔授業に変更し開講する。</p> <p>・食科学部の科目修了試験は、オンライン試験を 1 年間実施できた。家政学部の会場試験は 2027 年度をもって廃止し、2028 年度からは全学科・全科目をオンライン試験に変更することについて、学務委員会・学長承認を得た後、在学生への周知を完了した。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：75%</p> <p>「通信教育における新たな学位プログラムの展開」は理事会への答申を踏まえ、具体化に向けてさらに検討を進める。科目修了試験のオンライン化については 2028 年度の全学科実施に向けて進めていく。デジタル化・IT 化は、次年度以降も年度ごとに設定する到達目標を達成すべく、さらに推進する。</p> |

## (2) 学修者本位の教育の展開

| 中期計画 行動目標                                                                  | 2025 年度事業計画 |                                                                                       |
|----------------------------------------------------------------------------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>①授業改善の取組</p> <p>学生による授業アンケートの結果を活用した授業の改善を図るための取り組みを、全学的かつ制度的に実施する。</p> | 到達目標        | <p>・授業評価アンケートについて、前年度より導入した新たな対応策を継続して運用する。</p> <p>・必要に応じて対応策の改善に努めながら、教育改善につなげる。</p> |
|                                                                            | 活動概要        | <p>・前年度より引き続き、前期・後期の授業評価アンケートの集計結果を用いて授業改善に向けた対応策を実施し、必要に応じて改善策を講じる。</p>              |

|                                                                                                                              |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                              | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|                                                                                                                              | 達成状況        | <p>2024 年度後期より半期ごとに授業改善に向けた対応策を実施し、自由記述欄に記載された改善を要すると思われるコメントを取りまとめて全授業担当者に発信・共有して改善を促した。次年度以降も同取り組みを継続する。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：100%</p>                                                                                                                            |
|                                                                                                                              |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <p>②学修成果の可視化</p> <p>学修者が授業を通じて身につける能力を明示し、教育者側のみならず、学修者自らが学修成果を客観的に把握できるような指標の作成に取り組む。</p>                                   | 到達目標        | <p>・大学 DP もしくは学科 DP の評価に係る客観的指標の作成に向けて、作成方針を策定する。</p>                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                                                                                                              | 活動概要        | <p>・JWU 女子高等教育センターにおいて DP 達成度評価に係る客観的指標の作成方針案を検討し、大学執行部会議に提案する。</p>                                                                                                                                                                                                                              |
|                                                                                                                              | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|                                                                                                                              | 達成状況        | <p>2026 年度より新たなアセスメント・プラン及びカリキュラムマップを導入することを決定した。あわせて、学科 DP の達成度を評価するために、卒業論文・卒業研究・卒業制作及び付随して行われる演習科目（ゼミ）をアセスメント科目に位置づけ、達成度評価の客観的指標として学科ごとにルーブリックを作成した。2026 年度より暫定的な運用を開始する。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：90%</p> <p>2027 年度の本格運用に向けて、2026 年度の暫定運用で問題が生じた場合は改善を図る予定のため。</p> |
|                                                                                                                              | 到達目標        | <p>・前年度に策定した年次計画に従い、全学で応用基礎レベルを取得するためのプログラムを決定する。</p> <p>・前年度に策定した各種情報技術者試験による単位認定制度案に従い年次計画を定め、導入準備を進める。</p>                                                                                                                                                                                    |
|                                                                                                                              | 活動概要        | <p>情報処理委員会にて以下について取り組む。</p> <p>・年次計画に従い、全学で応用基礎レベルの認定取得をめざしたプログラムを作成、大学執行部会議に提案し、承認を得る。</p> <p>・各種情報技術者試験による単位認定制度導入や各種試験取得支援に向けて、各種試験内容と本学カリキュラムとの整合性を精査し、制度案や支援内容案を作成する。</p>                                                                                                                   |
| <p>③数理・データサイエンス・AI 教育の推進</p> <p>文部科学省の数理・データサイエンス・AI プログラム認定制度において、全学で応用基礎レベルを取得する。</p> <p>IT パスポートの取得を全学的に推奨し、学生に取得を促す。</p> | 到達目標        | <p>・前年度に策定した年次計画に従い、全学で応用基礎レベルを取得するためのプログラムを決定する。</p> <p>・前年度に策定した各種情報技術者試験による単位認定制度案に従い年次計画を定め、導入準備を進める。</p>                                                                                                                                                                                    |
|                                                                                                                              | 活動概要        | <p>情報処理委員会にて以下について取り組む。</p> <p>・年次計画に従い、全学で応用基礎レベルの認定取得をめざしたプログラムを作成、大学執行部会議に提案し、承認を得る。</p> <p>・各種情報技術者試験による単位認定制度導入や各種試験取得支援に向けて、各種試験内容と本学カリキュラムとの整合性を精査し、制度案や支援内容案を作成する。</p>                                                                                                                   |

| 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 達成状況        | <p>・全学で応用基礎レベルの認定取得をめざしたプログラムについて計画を前倒しし、前年度末の大学執行部会議で承認を得ることができた。</p> <p>・各種情報技術者試験による単位認定制度導入や各種試験取得支援に向けて、各種試験内容と本学カリキュラムとの整合性の精査を終えた。具体的な制度案や支援内容について次年度以降も継続して検討を行う。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：80%</p> <p>全学を視野に入れた文部科学省への申請及び単位認定制度導入や各種試験取得支援に向けた対応を継続して行うため。</p> |

### (3) キャリア教育・生涯教育の連携強化

| 中期計画 行動目標                                                                                                                                                                                                                                    | 2025 年度事業計画 |                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|------------------------------------------------------------------------------|
| <p>①キャリアセンター（仮称）の設立を構想する</p> <p>女性の生涯を通しての学びや社会での活躍を支援するため、学生の就職支援、リカレントやリスキリングによるセカンドキャリアの支援、及び女性のキャリア形成に係る研究等を統括的に支援するキャリアセンター（仮称）の設立を構想し、2026 年度設置を目指す。現在のキャリア支援課と生涯学習センターの機能のうちキャリア支援講座等の一部を集約し、在学生のキャリア支援を強化する。リカレント教育課程及び現代女性キャリア研</p> | 到達目標        | <p>・キャリアセンター（仮称）の 2026 年度開設に向けて、設置のための準備組織を立ち上げ、開設準備を進める。</p>                |
|                                                                                                                                                                                                                                              | 活動概要        | <p>・設置のための準備組織を設置し、キャリアセンター（仮称）の開設に際し、構成、予算、規程、その他生じる課題について解決し、学内の承認を得る。</p> |

|                                                                                      |             |                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 研究所については、キャリアセンター（仮称）との連携を再構築する。                                                     | 2025 年度事業報告 |                                                                                                  |
|                                                                                      | 達成状況        | 2026 年度に JWU キャリアライフセンターを設置することを、理事会で審議・決定した。<br><br>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%<br>中期計画に対する進捗度：100% |
| ②生涯教育の充実<br><br>本学園のビジョンに基づき、生涯を通じて多様なキャリアを支援するため、リカレント教育課程において、学位取得プログラムの導入可否を検討する。 | 到達目標        | ・2024 年度に検討し、現在のリカレント教育課程に学位取得プログラムを導入することは困難と判断した。今後、別のプラットフォームにて本学リカレント教育課程のあり方を探ることとする。       |
|                                                                                      | 活動概要        | —                                                                                                |
|                                                                                      | 2025 年度事業報告 |                                                                                                  |
|                                                                                      | 達成状況        | —                                                                                                |

#### （４）グローバル化の推進

| 中期計画 行動目標                                                                                                                                                              | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 外国語による授業や海外での修学・就業体験の増加、キャンパスの国際化、語学力の保証を柱に、グローバル化を推進する。<br><br>具体的には、2030 年度までに各種グローバル化推進事業への参加人数 1200 名（学部生の約 20%）（2022 年度時点は約 370 名）を達成し、留学生の送り出し数を 75 名（2022 年度時点は | 到達目標        | ①大学教育の国際化<br>・外国語で実施される授業：14 科目、受講者 220 名<br><br>②国際交流<br>・課外活動で外国語を学ぶ学生：320 名<br>・協定校：35 校<br>・留学生（アウトバウンド）：長期：78 名、短期：460 名<br>・留学生（インバウンド）：27 名<br>・正規留学生：19 名<br><br>③キャリア×国際<br>・海外インターンシップ参加 2 名<br><br>④財政基盤確立<br>・JWU Global Fund 1,000 万円（単年度） |

|                                                                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>15 名)、受け入れ数を 75 名 (2022 年度時点は 23 名) に増やす。さらに、ダブルディグリーの採用を検討するなど質を意識した戦略的な協定を拡充し、海外協定校数を 27 校 (2022 年度時点は 17 校) に増やす。</p> | <p>活動概要</p> <p>①大学教育の国際化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語で実施される教養科目の履修者からコメントを PR に活用。SNS 等で発信する。</li> <li>・オンラインで海外の大学の授業を受け、単位が修得できる仕組みを構築できるか、2025 年度に検討する。</li> </ul> <p>②国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・TOEFL iBT 準備コースで、より多くの学生の目標突破の仕組みを構築する。</li> <li>・ニュージーランド 5 つの国立大学と派遣留学の協定を締結し、学生や保護者に広く知らせる機会として NZ DAY を 5 月に企画する。</li> <li>・マレーシア、カナダ、アメリカの大学との協定についても交換留学の協定締結を目指す。</li> </ul> <p>③キャリア×国際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台湾の中国信託銀行でのインターンシップについて、参加希望者の募集を行う。</li> </ul> <p>④財政基盤確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JWU Global Meet-up Day (留学成果報告会・奨学金授与式) を活用し、次の寄付や月額寄付につながるよう勧誘を行う。</li> </ul> |
| 2025 年度事業報告                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| <p>達成状況</p>                                                                                                                 | <p>①大学教育の国際化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語で実施される授業：<br/>目標 14 科目、実績 14 科目<br/>受講者：目標 220 名、実績 275 名</li> </ul> <p>②国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課外活動で外国語を学ぶ学生：目標 320 名、実績 759 名</li> <li>・協定校：目標 35 校、実績 39 校 (総計)</li> <li>・留学者 (アウトバウンド) 長期：目標 78 名、実績 64 名<br/>短期：目標 460 名、実績 476 名</li> <li>・留学生 (インバウンド) 目標 27 名、実績 27 名</li> <li>・正規留学生：目標 19 名、実績 31 名</li> </ul> <p>③ キャリア×国際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外インターンシップ<br/>*参加：目標 2 名、実績 7 名</li> </ul> <p>④ 財政基盤確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JWU Global Fund (単年度)：目標 1,000 万円、実績 1,793 万円 (179%)</li> </ul>                                     |

|  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：</p> <p>①大学教育の国際化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語で実施される授業：125%達成</li> </ul> <p>②国際交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課外活動で外国語を学ぶ学生：237%達成</li> <li>・協定校：111%達成</li> <li>・留学生（アウトバウンド）長期：82%※、短期：103%達成</li> </ul> <p>※未達成の理由：円安により、留学先の学費を負担する派遣留学が伸びにくい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生（インバウンド）100%達成</li> <li>・正規留学生：163%達成予定</li> </ul> <p>③ キャリア×国際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外インターンシップ：350%達成</li> </ul> <p>④ 財政基盤確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JWU Global Fund(単年度)：179%達成</li> </ul> <p>中期計画に対する進捗度：90%</p> <p>9つの目標数値のうち、長期留学（協定・認定大学留学および国際文化学科「実践 A」）の実績は徐々に増加しているものの、目標値には到達していない。今後、長期留学の目標値の妥当性について検討するとともに、この取組の一層の推進を図る必要があると考える。</p> |
|--|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## （５）一貫教育体制の強化

| 中期計画 行動目標                                                  | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 幼稚園から大学までの一貫教育を強化する取組として、グローバル教育、STEAM 教育及びキャリア教育を柱に、最終地点と | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学園一貫教育推進委員会の下各 WG において、「グローバル教育」、「STEAM 教育」、「キャリア教育」の領域に於ける教科内容の強化プログラムを施行し、次年度以降のプログラムに繋げる。また、中期計画に於ける目標設定も行う。</li> </ul> |

|                  |             |                                                                                                                                                                                    |
|------------------|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| しての大学の教育体制を構築する。 | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各 WG が提出した 2025 年度の施策の実施、およびその評価を行う。</li> <li>・他校と比べての競争力の有無なども含め、発信力を強化し、次年度のプログラム提案に繋げる。</li> </ul>                                      |
|                  | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                    |
|                  | 達成状況        | <p>各 WG において、各領域に於ける教科内容の強化プログラムを施行した。今年度の活動を踏まえ、2026 年度に向けた新たなプログラムに繋げる。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：50%</p> <p>引き続き、一貫教育として有機的な大学への接続に関し、可視化できるよう検討する。</p> |

#### (6) 学生支援体制の強化

| 中期計画 行動目標                                                                                                                                        | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                                                                    |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>学寮のあり方についての再検討</p> <p>創立当初から本学の教育の一環として位置づけられてきた学寮ではあるが、時代と共に変わるニーズや総学生数に占める寮生数の割合、学生の多様化等を鑑みて、教育寮・自治寮として継続する必要性を再検討し、将来的な学寮のあり方を企画・立案する。</p> | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の学寮を維持運営しながら、将来的な新たな学寮についての検討に着手する。</li> </ul>                                                                                           |
|                                                                                                                                                  | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の学寮については、前年度点検・検討した教育機能及び自治機能について寮生と改善案を決定し、2026 年度より運用する準備を進める。</li> <li>・将来的な新たな学寮については、大学執行部会議の下に設置する WG を中心に、他大学の運営を調査する。</li> </ul> |

| 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度に実施したアンケートを基に、学寮連絡協議会において自治寮運営について寮生と話し合い、2026 年度の運営につなげることとした。</li> <li>・他大学寮の見学調査を実施し、学寮委員会にて本学との比較報告を行った。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：40%</p> <p>複数年かけて検討を行うこととなっており、当年度は現状の点検・運営改善・他大学調査の段階であるため。</p> |

## 2. 研究の質の向上

### (1) 研究ガバナンス体制の確立と質の高い研究の推進

外部資金獲得に向けて、研究ガバナンス体制を確立し、質の高い研究を推進することにより、科研費採択率 30% 台を維持する。

| 中期計画 行動目標                                                                                                                 | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①研究支援体制の整備<br>事務局の研究支援部門の体制及び業務分掌を見直し、2026 年度に研究支援に特化した研究推進組織を設置する。知財・特許・法務等に係るサポート体制を整備するために、当該業務に精通した職員の配置等、高度化、専門化を図る。 | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに設置した委員会で研究支援体制案を立案する。</li> <li>・私立大学等改革総合支援事業タイプ 2 の得点上積みを目指し、要件を満たすための課題を取りまとめる。</li> </ul>                                                                                                                            |
|                                                                                                                           | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに設置した委員会の規程を制定し、具体的な研究支援（知的財産管理・研究データ管理等）について検討する。</li> <li>・新たに設置した委員会と既存の研究関連各種委員会との関連性を整備する。</li> <li>・私立大学等改革総合支援事業タイプ 2 の要件を満たすために、関係部署と連携し課題の整理及び学内調査を実施する。</li> </ul>                                             |
|                                                                                                                           | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|                                                                                                                           | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに設置した研究支援委員会において、知的財産活動委員会に依頼し、知的財産管理に関するポリシー及び規程案について検討した。</li> <li>・私立大学等改革総合支援事業タイプ 2 について、本学研究支援体制の現状と課題の洗い出しを行った。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：70%</p> <p>中期計画に対する進捗度：70%</p> <p>規程制定及び研究支援体制について次年度検討するため。</p> |

|                                                                                             |             |                                                                                                                                                               |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ②教員の研修機会の確保<br>研究支援強化として、<br>全学科の教員が国内・海外における研修・留学、及びサバティカルに参加できる体制を整える。                    | 到達目標        | ・教員の研修機会について、前年度の調査結果を基に、研修・留学、及びサバティカルに参加できていない学科等、学科間の不均衡を是正できる仕組みを構築する。                                                                                    |
|                                                                                             | 活動概要        | ・研修・サバティカルに参加が難しい学科等が極力参加できるような策を立案する。                                                                                                                        |
|                                                                                             | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                               |
|                                                                                             | 達成状況        | <p>研修・サバティカルへの参加が難しい学科の課題を事務局で確認した。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：30%</p> <p>中期計画に対する進捗度：30%</p> <p>次年度以降、研修・サバティカルへの参加が難しい学科への聞き取り調査（アンケート等）を行って対応策を検討する。</p>    |
| ③特色ある研究分野の強化<br>予算配分の見直し及び効率的な予算支出により、特色ある研究分野の強化を図る。<br>特別重点化資金を学内競争的資金として研究費に転換することを検討する。 | 到達目標        | ・研究教育経常費及び個人研究費について、現状の配分方法の問題点について整理し、新たな配分案を策定する。                                                                                                           |
|                                                                                             | 活動概要        | <p>・各種研究費予算の執行状況に鑑み、配分方法の問題点を洗い出す。</p> <p>・新たな配分案を作成し、提案する。</p>                                                                                               |
|                                                                                             | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                               |
|                                                                                             | 達成状況        | <p>新たな配分案の作成までには至らなかったが、センター・委員会予算について、経年の執行状況を可視化し、問題点を整理した。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：50%</p> <p>中期計画に対する進捗度：50%</p> <p>今後、センター予算の配分見直しや研究費予算全体の見直しを行う。</p> |
| ④教員の研究成果のオープンアクセス化、研究データのオープン化、Read & Publish 導入等による研                                       | 到達目標        | <p>・2025 年度から始まる「学術論文等の即時オープンアクセス (OA)」について、追加で決定された事項や運用方法の変更について、教員に随時周知する。</p> <p>・高騰する学術情報へのアクセスを維持するため、継続可能な購読モデルを比較検討し、購入部署（学科または図書選定委員会）に提案する。</p>     |

|                                                                                                                                               |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>研究成果の発信と学術情報へのアクセスの推進</p> <p>学術情報リポジトリの強化やオープンサイエンスの推進を通して本学の学術成果を社会に発信すると共に、高騰する学術情報へのアクセスを維持するため投稿料と購読料を一括する転換契約等、継続可能な購読モデルを比較検討する。</p> | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・制度開始の告知ポスターを作成し、各学科に配布する。図書館 HP に説明ページを設け、順次情報を掲載していく。</li> <li>・JUSTICE（国公立大学図書館コンソーシアム連合）の研修、フォーラム等を通じて情報収集を行い、購読モデルを検討する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|                                                                                                                                               | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|                                                                                                                                               | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・即時 OA 制度開始に関するポスターを作成、4 月 17 日に各学科に配布し、掲出を依頼した。</li> <li>・4 月 24 日、図書館長が大学改革運営会議でポスター配布に関して周知した。</li> <li>・6 月 26 日、図書館 HP に「公的資金による学術論文等の即時 OA について」の説明ページを開設した。</li> <li>・6 月～7 月に JUSTICE から提供された本学の APC（論文掲載料）支払い推定額（2019-2023）を基に、本学から投稿された OA 論文の実態調査を行った。その結果、投稿されている雑誌と本学が購読している雑誌がほぼ重複していないことが判明し、転換契約には費用対効果が望めないと判断している。</li> <li>・欧文データベース及びジャーナル等は、契約料金の高騰対策として「複数年契約」やコンソーシアム参加、オンラインへの媒体変更、版元との個別交渉等、現時点での最適な条件を慎重に検討し各年の値上り率を抑制できる契約を選択している。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：100%</p> |

## （２）既存の研究組織の見直し

| 中期計画 行動目標                                                                         | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                              |
|-----------------------------------------------------------------------------------|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>①附属機関の見直し</p> <p>総合研究所、現代女性キャリア研究所等、附属機関の研究資源等を発展的に再配分するため、統廃合・再編を構想し、進める。</p> | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・JWU 研究機構（仮称）及びその下に置かれる各研究所等について、既存の附置研究所からの円滑な移行を含め、具体的な運営体制を決定する。</li> </ul>        |
|                                                                                   | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・JWU 研究機構（仮称）及びその下に置かれる各研究所の具体的な運営体制について、適切な検討体制の下検討を行い、大学執行部会議及び理事会に提案する。</li> </ul> |

| 2025 年度事業報告                                                                                                        |             |                                                                                                                                                                                                                                                               |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                    | 達成状況        | <p>JWU 研究機構（仮称）設置検討 WG において、昨年度理事会に上程された答申に基づき、附属機関の在り方（特に総合研究所の発展的解消）について検討した。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：70%</p> <p>中期計画に対する進捗度：70%</p> <p>JWU 研究機構（仮称）の設置及び運営体制の検討が継続となったため。</p>                                                                            |
| <p>②大学院組織の再編と連携</p> <p>学部・学科再編に伴い、大学院の再編を進める。</p> <p>共通カリキュラムの設定等、大学院間での連携を進める。</p> <p>大学院科目担当教員の人件費に係る規則を見直す。</p> | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院の再編について、学部・学科再編検討委員会において検討を進める。</li> <li>・大学院入試協議会と連携し、大学院入学・収容定員の見直しを行う。</li> </ul>                                                                                                                               |
|                                                                                                                    | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・通学の学部学科ベースによる検討を前提とし、改組新設となる学部と大学院が不可分の事案を優先して検討する。</li> </ul>                                                                                                                                                        |
|                                                                                                                    | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                               |
|                                                                                                                    | 達成状況        | <p>大学院の再編について、学部・学科再編と併せ、執行部への意見聴取等を含めて検討を進め、研究科再編の方向性については、2026 年 3 月の大学改革運営会議にて、学部再編と連動した当面の対応方針の整理（概要）と、2031 年度以降の学部学科・研究科体制（案）を共有した。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：70%</p> <p>建築デザイン研究科、食科学研究科の設置までは学内意思決定が完了し、その後の再編計画は進行中であるため。</p> |

### 3. 社会連携・社会貢献

#### （１）社会連携活動の推進

| 中期計画 行動目標                                               | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                    |
|---------------------------------------------------------|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>①地域・社会との連携強化による人材育成</p> <p>連携先を拡大する段階から、連携先との関係深</p> | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・協定締結地域との連携内容をより深化させ、教育・研究の活動を充実させる。</li> <li>・社会連携 HP 内の SDGs サイトの掲載記事を 8 件増やす。</li> </ul> |

|                                                                         |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 化を図る段階へと移行し、産学公連携等による学生の実践教育を充実させる。                                     | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携地域のニーズを確認し、本学教員と繋げて連携事業を推進する。</li> <li>・教員の協定締結地域における活動の助成制度を見直し、実施する。</li> <li>・社会連携 HP 内の SDGs サイト等の掲載記事内容を教員の研究以外にも広げて充実させる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                                                         | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|                                                                         | 達成状況        | <p>&lt;地域連携事業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文京区：行政や教育センター、社協との連携に加え、目白台地域の会合にも参加して地元密着の関係を構築した。</li> <li>・川崎市多摩区：3 大学連携に加え、新たに多摩ソーシャルデザインセンターとの連携強化も模索している。</li> <li>・日高管内 7 町：昨年度いただいた連携ニーズに基づき、今年度は浦河町および平取町、新冠町へそれぞれ教員と学生が訪問し活動。加えて本年度も新たに 6 件の連携ニーズをいただき、その中から新ひだか町や様似町については具体的な活動に向けたオンライン打ち合わせを実施した。</li> <li>・高知県梼原町：今年度も演劇ワークショップを行い、地元の方とも交流を行った。</li> <li>・岩手県盛岡市：3 か年で実施されるアグリノベーション事業は 2 年目の活動のみならず最終年への準備もあわせて行った。</li> </ul> <p>&lt;教員の活動支援助成&gt;</p> <p>告知方法や予算について検討のうえ本年度も実施。5 名の教員から申請がありすべて採択した。</p> <p>&lt;SDGs サイト&gt;</p> <p>教員 9 名、事務局 1 部署に対してインタビューを実施し、10 件の記事を掲載した。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：80%</p> <p>引き続き推進策（改善策・拡充策）を検討する必要があるため。</p> |
| ②一般社団法人日本女子大学教育文化振興桜楓会との連携を強化し、卒業生への支援活動を協働して実施することにより、卒業生との持続的関係を構築する。 | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・桜楓会との共催行事である「ホームカミングデー」の企画内容等を改善し、ホームカミングデー来場者数前年比 105%を目指す。</li> <li>・桜楓会と協働して卒業生への支援活動を企画する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|                                                                         | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームカミングデー招待年次を設定し、周知を行っていくことで来校者数を増やすとともに、企画内容の充実を図る。</li> <li>・食科学部開設記念イベントに加え、キャリアイベント、遺贈セミナー等、卒業生のライフステージに合わせた催しを企画する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

|  |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  |             | ・桜楓会と協働して卒業生への支援活動の企画を立案する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|  | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|  | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・招待状発送数 6,327 通</li> <li>・来場者数 996 人 前年比 156.6% (+360 人)</li> <li>・オープニング・創立記念式典出席者 620 人</li> <li>・ヤマザキマリ氏講演『『食』で拓く新たな世界。』</li> <li>・来場記念品 330 個配付</li> <li>・キャンパスツアー参加者 118 人</li> <li>・日本女子大学フェア in 静岡の開催 (7/27)</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：100%</p> |

## (2) 社会貢献活動の推進

| 中期計画 行動目標                                                                                                      | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①社会貢献活動に関する<br>情報発信の強化<br><br>本学が実施している地<br>域連携活動や研究成果に<br>ついて集約、整理し、それ<br>らの取組を社会に広く周<br>知するために情報発信を<br>強化する。 | 到達目標        | ・前年度に策定した発信方法・周知方法を継続し、必要に応じて改善に努める。                                                                                                    |
|                                                                                                                | 活動概要        | ・社会連携教育センターの HP の構成等を見直し、掲載内容を充実させる。                                                                                                    |
|                                                                                                                | 達成状況        | 2025 年度事業報告<br><br>社会連携 HP の構成見直し・改修を 6 月～7 月にかけて行った。4 月～2 月の PV 数実績は前年比で 130%と伸長した。<br><br>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%<br>中期計画に対する進捗度：100% |
| ②学生ボランティア活動<br>の推進<br><br>学生ボランティアに関<br>する情報発信や地域との                                                            | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度に作成したボランティア活動の支援方針案に基づき、学生のボランティア活動参加を推進する。</li> <li>・協定締結地域における活動をさらに推進する。</li> </ul>       |

|                                                  |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|--------------------------------------------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 連携等を通して、支援体制の充実を図り、取り組みやすい環境を整え、学生ボランティア活動を推進する。 | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学紹介の活動先団体の充実をはかり、学生の学びの機会を増やす。</li> <li>・学生の協定締結地域における活動等助成制度を見直し、実施する。</li> </ul>                                                                                                                                                         |
|                                                  | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|                                                  | 達成状況        | <p>&lt;大学紹介団体の充実&gt;</p> <p>文京区の他にすでに繋がりがあった近隣自治体からの紹介数も増やし、大学紹介団体は 2024 年度の 21 件から 2025 年度は 39 件と増加した。次年度に向けて豊島区民社協とも関係を構築した。</p> <p>&lt;学生の活動支援助成&gt;</p> <p>これまでの課題の改善を反映した募集要項を作成して本年度も実施した。7 チームから申請があり 6 チームを採択した。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：100%</p> |

#### 4. 入学者の安定的な獲得

##### (1) 入学者の安定的な獲得

| 中期計画 行動目標                                                   | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------------------------------------------------------------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 新規入試の導入、新学部・新学科の入試広報の強化、高大連携の強化等により、入学志願者数の前年比 100%以上を継続する。 | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2026 年度入学試験における学部志願者数は、前年度比 115%を達成する。</li> <li>・2025 年度開催のオープンキャンパス来場者数を 10,000 名にする。</li> <li>・2025 年度に本学単独の学外進学説明会を 5 件開催する。</li> <li>・2026 年度入学試験に導入を計画する「入学前予約型給付奨学金」（首都圏（1 都 3 県）以外の高等学校等出身者対象）制度を立案する。</li> <li>・2025 年「進路指導教諭が評価する大学」（大学通信調べ）において、1 部門以上の誌面掲載（ランクイン）を目標とする。</li> </ul>                               |
|                                                             | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2026 年度一般選抜の入試改革、検定料の併願割引（及び入学前予約型給付奨学金）の新規施策により、志願者及び併願受験生の増員を図る。</li> <li>・進学実績に基づき学校推薦型選抜の出願基準等の見直しを行う。</li> <li>・附属高等学校及び協定校の生徒を対象とする新規イベントを春季に開催して、本学への進学者増に繋げる。</li> <li>・オープンキャンパスの告知時期や内容（開催時期・回数を含む）を改善して、参加者の満足度の向上に努める。また、LINE の配信内容及び配信のタイミングについても見直しを行う。</li> <li>・高校教諭の本学への認識・評価を高めるため、高校教諭向けの媒体広告等</li> </ul> |

|                                                                                                                                                  |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                  |             | <p>の強化、高校教諭対象の説明会及び高校教諭のメーリングリストの発信内容を充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本学単独の学外進学説明会の開催地域を拡充して、開催地近隣の高等学校への接触を密にして、より多くの高校生及び保護者に日本女子大学の魅力を伝える。</li> <li>・ 新規に導入する入学前予約型給付奨学金の入試広報活動を強化して、1都3県（東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県）以外の地方からの志願者増を図る。</li> </ul>                                                                                                                                                                                  |
|                                                                                                                                                  | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|                                                                                                                                                  | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2026 年度入試のうち、総合型選抜は前年度比 118%、学校推薦型選抜（附属高等学校推薦除く）は前年度比 126%を達成した。</li> <li>・ 2025 年度オープンキャンパス来場者数は 10,895 名となり、目標の 10,000 名以上を達成した。</li> <li>・ 本学単独の説明会を、千葉、大宮、町田、藤沢、立川、横浜、宇都宮の合計 7 都市で開催した。</li> <li>・ 2026 年度入試より、「入学前予約型給付奨学金」（首都圏（1 都 3 県）以外の高等学校等出身者対象）制度を導入、運用を開始した。</li> <li>・ 2025 年「進路指導教諭が評価する大学」（大学通信調べ）において、2 部門紙面掲載された。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：100%</p> |
| <p>①入試制度の多様化</p> <p>志願者数の増加と入学者の安定的確保を目指し、入試制度を多様化する。全学統一入試、現在の一般入試と別日程での一般選抜（2 月中旬、下旬入試等）、地方入試等の新規入試について導入可否を 2025 年度中に決定し、2027 年度入試より実施する。</p> | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2026 年度一般選抜の入試改革及び検定料の併願割引制度の検証を行う。</li> <li>・ 2027 年度以降の新たな入試改革案を立案する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|                                                                                                                                                  | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2026 年度一般選抜の新たな入試制度・検定料の併願割引制度及び（入学前予約型給付奨学金）に関して、2025 年度の入学試験協議会において導入効果を検証する</li> <li>・ 2027 年度以降の新たな入試改革（全学部統一入試、地方入試、年内入試改革など）を協議する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                   |

| 2025 年度事業報告                                                                                                                                                                                                                                       |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                                                                                                                   | 達成状況 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2026 年度入試の検証については、志願者数や併願率の変化等、部分的な検証は実施したものの、全体的な検証は 2026 年度入学試験協議会において実施することとした。</li> <li>・新たな入試改革案については、複数の案から一般選抜（中後期入試）を 2028 年度に導入する方向性を入学試験協議会において決定し、各学科へ意向調査を実施中である。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：80%</p> <p>中期計画に対する進捗度：80%</p> <p>2026 年度入試の検証は、2025 年度入学試験協議会で実施するとしていたところ、全体的な検証を 2026 年度に実施することとしたため。また、新たな入試改革については、中期計画策定時では 2027 年度より実施予定のところ、2028 年度の実施に向けて検討している。</p>           |
| <p>②新学部・新学科の志願者増加及び志望度を上げる入試広報の強化</p> <p>大学改革の象徴であり、社会の変化や高校生の受験動向を踏まえた新学部の学科カリキュラム、特徴的な授業科目の紹介、研究室紹介及び卒業生紹介など、新学部の魅力を戦略的に発信する。</p> <p>また、高校 1・2 年生を対象とした本学の志望度を上げる入試広報活動を展開する。</p> <p>これにより、新学部・新学科の志願者数を前年度志願者数（基礎となる既設学部・学科）に対し 120%以上とする。</p> | 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2026 年度より学科名称を変更する日本語日本文学科と歴史文化学科及び英文学科を含む新文学部の志願者数は、2025 年度入試の志願者数の前年度比 110%を達成する。</li> <li>・2027 年度開設を構想中の経済学部経済学科（仮称）の入試広報計画に関して、進行管理及び効果測定を実施する。</li> <li>・高校 1・2 年生のキャンパス訪問来場者数を、2024 年度実績比で 115%以上を達成する。</li> </ul>                                                                                                                                                                              |
|                                                                                                                                                                                                                                                   | 活動概要 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科名称を変更する文学部日本語日本文学科、歴史文化学科の入試広報について、広報課と連携して広報計画を策定・実施する。</li> <li>・文学部に関するイベントについて、当該学科・関係事務部署とともに、高校生やその保護者等に向けた入試広報戦略を立案・実施する。</li> <li>・経済学部経済学科（仮称）の設置準備委員会において、新学部入試広報計画（開設前々年度・開設前年度・開設年度等）を協議して、広報計画を推進・管理するとともに、効果測定を実施する。</li> <li>・公式 Web サイトや SNS、各種広告媒体を活用して、受験生やその保護者を意識したメッセージで効果的な情報発信を行う。また、経済学部（仮称）及び学部・学科再編による新学部の入試広報においては、発信の内容、時期、媒体、対象等を明確にした上で計画的に行い、その効果を検証し改善する。</li> </ul> |

| 2025 年度事業報告                                                                                              |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                          | 達成状況 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2026 年度の日本語日本文学科、英文学科及び歴史文化学科の志願者数合計は、前年度比 102% であった。</li> <li>・2024 年度末作成の文学部コース制チラシに続き、2025 年 6 月オープンキャンパス配布を目標に文学部 3 学科紹介の 8 頁リーフレットを作成。来場者配布に加え学外進学相談会等へ約 2,500 部、個人資料請求者 340 名へ送付。リーフレットに文学部紹介動画と LP への QR コードを掲載し、大学公式 HP や YouTube への導線を確保した。</li> <li>・2025 年 8～9 月に河合塾模試受験者が成績確認で訪れるサイトへ文学部 LP 誘導バナーを掲出。2025 年 12 月は出願促進として、文学・人文学・語学及び情報・メディア志望で本学の競合校へ資料請求した首都圏の高校 3 年生女子を対象に webDM を配信した。</li> <li>・経済学部(仮称)は受容性調査用リーフレットと LP デザインを用い、受験媒体での新学部広報を 2024 年度末から開始。2025 年 12 月に特設 LP を公開し、2026 年 1・2 月発行の高校生向け受験冊子と河合塾模試受験者が訪れるサイトへのバナー掲出、高校教員向け 2 月発行の受験冊子掲載、保護者含む高校生向け 3 月の資料請求 DM 冊子掲載を予定。</li> <li>・高校 1・2 年生の来場は、前年比 122.4% を達成した。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：90%</p> <p>中期計画に対する進捗度：90%</p> <p>2026 年度の日本語日本文学科、英文学科及び歴史文化学科の志願者数合計について、目標を前年度比 110% 以上としていたところ、102% に留まったため。</p> |
|                                                                                                          | 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高大連携協定校からの学校推薦型選抜の志願者数は、前年度比 120% を達成する。</li> <li>・協定校関連の新規イベントを企画・実施し本学の魅力を伝え、学校推薦型選抜のみならず総合型選抜・一般選抜の志願者増加を図る。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| ③高大連携の強化<br>附属高等学校と大学との高大連携を強化するため、一貫教育の強化を図る。新たな高大連携協定を拡充する。また、科目等履修生（高等学校生徒コース）を活用した大学の授業の先取り履修を活性化する。 | 活動概要 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校推薦型選抜（連携校）では、協定校と協議の上、大学（研究室）訪問・高校内進学説明会・模擬講義等を拡充して志願者（入学者）増を図る。協定校との高大連携連絡会により、高校側が要望する高大連携の方策を聴取する。また、他大学の高大連携（高大接続）プログラムを調査する。</li> <li>・協定校関連の新規イベントを企画・実施して、学校推薦型選抜（連携校）の志願者を増やすとともに、総合型選抜及び一般選抜の協定校からの志願者増・入学者増に繋げる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

|                                                                                                                                                              |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                              | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|                                                                                                                                                              | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高大連携協定校からの学校推薦型選抜の志願者数は、前年度比 200%を達成した。</li> <li>・協定校を対象に「日本女子大学授業見学 DAY」及び「春の体験型授業イベント」を実施したことに加え、個別の要望（大学見学、模擬講義等）に対応した。総合型選抜及び一般選抜の協定校からの志願者については前年度比 178%、入学者は 133%を達成した。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：100%</p> |
|                                                                                                                                                              |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| <p>④大学院入学者の獲得強化</p> <p>大学院の入学・収容定員と教員数を見直す。</p> <p>2026 年度入試より入学者及び入学志願者の増加が見込める建築デザイン研究科、人間社会研究科心理学専攻、理学研究科等へ、定員充足率の低い専攻から入学・収容定員を移動する。あわせて教員数の配置も変更する。</p> | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスにおいて各専攻の個別説明を行うことや、専攻主催の大学院入学説明会を開催することについて周知を図る。</li> <li>・大学基準協会第 4 期認証評価の対応として、対応（改善）が必要である大学院の入学定員・収容定員の見直し案を 2025 年 12 月までに策定する。</li> </ul>                                                                                       |
|                                                                                                                                                              | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスにおいて各専攻の個別説明を行うことや専攻主催の大学院入学説明会を開催することを、本学ホームページや入試広報媒体だけでなく SNS 等も通して案内し、これまで以上に周知を図る。</li> <li>・大学院入学試験協議会において、大学基準協会の第 4 期認証評価への対応及び私立大学経常費補助金の獲得の視点から、大学院研究科の適正な入学・収容定員を明確化し、2025 年 12 月までに見直し案を策定する。</li> </ul>                   |
|                                                                                                                                                              | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|                                                                                                                                                              | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキャンパスにおいて各専攻の個別説明を行うことや、専攻主催の大学院入学説明会を開催することについて周知を図った。</li> <li>・大学基準協会第 4 期認証評価の対応として、対応（改善）が必要である大学院の入学定員・収容定員の見直し案を 2025 年 12 月理事会で審議・決定した。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：100%</p>                           |
|                                                                                                                                                              |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

## 1. 教育の質の向上

### (1) グローバル化の推進

英語教育、国際理解・異文化理解教育を充実させることにより、文化の多様性を尊重し受け入れる寛容な精神を涵養し、異文化を背景に持つ人々と共に、持続可能なより良い世界を築く力を発揮できる人を育てていく。

| 中期計画 行動目標                                                               | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-------------------------------------------------------------------------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①英語教育の充実<br>留学、短期海外（語学）研修、英語外部検定試験対策講座等の英語教育機会を充実させることにより、生徒の英語力を向上させる。 | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・留学する生徒数 5 名</li> <li>・短期海外（語学）研修の件数 2 件</li> <li>・短期海外（語学）研修の参加者数 40 名<br/>(NZ 語学研修 20 名、<br/>2024 年度新規事業 Cheltenham Ladies' College Summer School 20 名)</li> <li>・英語外部検定試験対策講座数 5 件<br/>(英検対策、英検ライティング、TOEIC 対策、TOEFL 入門、TOEFLiBT テスト準備)</li> <li>・英語外部検定試験対策講座受講者数 200 名</li> </ul>                                  |
|                                                                         | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位認定留学制度について新入生対象の留学説明会を実施する。</li> <li>・短期海外研修について、約 30 年の実績がある NZ 語学研修では事前勉強会を開催して現地での学習効果を高める。2024 年度より参加した Cheltenham Ladies' College Summer School では日本支部と連絡を密にとって効果的に実施する。</li> <li>・英語外部検定試験対策講座について、内容について省察し、十分な時間的余裕を持って生徒に周知を行う。</li> </ul>                                                                  |
|                                                                         | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|                                                                         | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期留學生徒 7 名<br/>(内 留学継続のため 3 名退学)</li> <li>・短期海外（語学）研修の件数 3 件<br/>参加者数 50 名<br/>(NZ 語学研修 22 名、<br/>Cheltenham Ladies' College Summer School 28 名)、<br/>スターリング大学夏期オンライン英語研修（高校生コース）5 名</li> <li>・英語外部検定試験対策講座数 5 件 受講者数 計 232 名<br/>(英検対策 177 名、(英検ライティングは中止)、TOEIC 対策 27 名、TOEFL 入門 9 名、TOEFLiBT テスト準備 19 名)</li> </ul> |

|                                                                            |      |                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                            |      | <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：88%</p> <p>長期留学生徒数は学年メンバーにより変動し、また、特に昨今の国際情勢の不安定さ、各家庭の経済事情の厳しさもあり、この進捗度となった。</p> |
| <p>②国際理解・異文化理解教育の充実</p> <p>異文化交流体験及び異文化理解講座等の実施を通して、生徒の国際理解や異文化理解を深める。</p> | 到達目標 | <p>・国際理解・異文化理解教育の機会を設ける。</p>                                                                                                   |
|                                                                            | 活動概要 | <p>・生徒の国際理解・異文化理解を深めるための教育機会について、講演会を企画立案し、実施する。</p>                                                                           |
|                                                                            | 達成状況 | <p>2025 年度事業報告</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：100%</p>                                                      |

## (2) STEAM 教育の推進

数学教育、理科教育及び情報教育の充実により、創造力と理数力を用いた問題解決能力を育成する。

| 中期計画 行動目標                                                                                                         | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>①情報教育の充実</p> <p>情報科の授業を軸とした教科横断型集中授業の継続と推進等により、AI 時代に必要不可欠な能力であるデータ処理やプログラミング等の基礎力を育み、生徒の将来の可能性を広げることを目指す。</p> | 到達目標        | <p>・1、2 年生の必修授業において、各教科（国語・数学・地歴公民・理科・英語・家庭科）と連携し教科横断型集中授業を行う。</p> <p>各教科と情報科の連携授業時間数 15 時間/1 クラス</p>                                                                                                                           |
|                                                                                                                   | 活動概要        | <p>・国語：情報収集能力・発信力を身につけるためレポート作成を行う。</p> <p>・数学：分析手法の理解、適切な分析、分析したものの可視化を目指し、実習・レポート作成を行う。</p> <p>・地歴公民：地理のデータブックのデータを表・グラフに可視化して考察し、レポート作成を行う。</p> <p>・理科：期待される力（実験結果をリアルタイムに可視化することにより、現象の考察、自然科学の法則に合致していることの理解、分析手法の理解、適</p> |

|                                                                                                                                                                                                         |             |                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                                                                         |             | <p>切な分析、分析したものの表現) を目指し、実験のレポート作成を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語：情報デザインの力を高めるため、英文の Web ページ作成を行う。</li> <li>・家庭科：データベースの理解を深めるために、献立表を作成し、栄養価計算を行い、考察し、レポート作成を行う。</li> </ul>                                                          |
|                                                                                                                                                                                                         | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                          |
|                                                                                                                                                                                                         | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2 年生の必修授業において、各教科（国語・数学・地歴公民・理科・英語・家庭科）と連携し教科横断型集中授業およびレポート作成</li> <li>各教科と情報科の連携授業時間数 30 時間/1 クラス</li> <li>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</li> <li>中期計画に対する進捗度：100%</li> </ul>                                       |
| <p>②数学教育の充実</p> <p>数理統計において、生徒が実習を通して実際のデータを取扱い、学ぶことにより、データサイエンスへの興味・関心を持ち、AI 時代に必要な能力を身につけることを目指す。</p> <p>純粋数学においては、数学に興味を持つ生徒を取りこぼさないことを前提に、新たに数学に興味を持つ生徒を増やし、より質の高い教育を提供することにより、理数的教養を持つ生徒を育成する。</p> | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学に興味を持つ生徒に向け、有志による数学ゼミを定期的かつ可能であれば複数の講座を開催する。</li> </ul>                                                                                                                                                        |
|                                                                                                                                                                                                         | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に進路が定まる 1 月以降、数学に興味を持つ生徒に向け、有志による数学ゼミを定期的かつ可能であれば複数の講座を開催する。基本的には生徒の希望を優先するが、特に無ければ大学以降の学習・研究を念頭に置いた講座、具体的には(多変数や <math>\varepsilon - \delta</math> を含んだ)微分積分・線型代数・群論・集合論(＋位相空間論)・易しい微分幾何学等の講座を開設する。</li> </ul> |
|                                                                                                                                                                                                         | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                          |
|                                                                                                                                                                                                         | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025 年度の数学の選択科目講座数：15 件</li> <li>・2026 年度の数学の選択科目講座（予定）数：15 件</li> <li>・1 月より 3 年生有志による数学ゼミ「線形代数」を開講した。</li> <li>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</li> <li>中期計画に対する進捗度：100%</li> </ul>                                    |
| <p>ア) 各授業においてデータサイエンスを利用し、生徒全員が、データ分析とその理論的背景を理解する。</p>                                                                                                                                                 | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・記述統計及び推測統計の基礎的な理論の理解を定着させる。</li> <li>・統計の学習を通じて批判的思考法を身につけさせる。</li> <li>・IT 授業による授業時間中の指導のきめ細やかさによって理論及び分析手法の理解を深める。</li> <li>・データサイエンスへの理解度を高めるための実習授業時間数 30 時間</li> </ul>                                      |
|                                                                                                                                                                                                         | 活動          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学では学習指導要領に記載のある記述統計・推測統計の理論学習に加え、PC を利用した実習授業を増やすことで、データ分析手法及びその理論的背景</li> </ul>                                                                                                                                |

|                                                    |             |                                                                                                                                        |
|----------------------------------------------------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                    | 概要          | <p>の実体験を通じて深く理解させる。</p> <p>・TT 授業を導入することにより、数学及び PC 実習の演習時間において、きめ細やかな指導を行うことで、理論的な背景及び分析手法の理解を深める。</p>                                |
|                                                    | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                        |
|                                                    | 達成状況        | <p>・データサイエンスへの理解度を高めるための実習授業時間数 28 時間</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：93%</p> <p>中期計画に対する進捗度：93%</p> <p>実習時間数は年間カリキュラム時間に応じて弾力的に変更させるため。</p> |
| イ)「データ科学」(3 年次選択科目)を新設し、充実させる。                     | 到達目標        | <p>・データサイエンスへの興味・関心を持たせるよう「データ科学」講座開設する。受講者 15 名程度。</p>                                                                                |
|                                                    | 活動概要        | <p>・「データ科学」の講座について企画を立案・実施する。</p>                                                                                                      |
|                                                    | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                        |
|                                                    | 達成状況        | <p>・2025 年度はデータ科学の講座が開講された。受講者 18 名。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：90%</p> <p>(受講者数は各生徒の希望に大きく左右されるため。)</p>        |
| ウ) 生徒の知的好奇心を刺激するデータサイエンス分野の専門家による最新の技術開発の講演会を実施する。 | 到達目標        | <p>・データサイエンス分野の講演会を実施する。</p>                                                                                                           |
|                                                    | 活動概要        | <p>以下の項目について、企画を立案・実施する。</p> <p>・テーマ、目的    ・講演者    ・講演形態    ・生徒からのフィードバック方法</p>                                                        |

|                                                                                                                                                                                             |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                                                             | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|                                                                                                                                                                                             | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み期間に大学教員の特別講演を実施（1 件）</li> <li>・12 月のデータ科学の講座内で大学教員の特別授業を実施（1 件）</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：100%</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| <p>③理科教育の充実</p> <p>科学的探究学習に力を入れて取り組み、生徒の興味・関心に基づいて課題を見つけることを推奨し、探究活動に取り組む生徒の裾野を広げることにより、創造力と理数力を用いた問題解決能力を育成する。</p> <p>ア) 2、3 年次の理科選択授業において、探究学習を積極的に推進し、生徒全員が卒業までに口頭形式またはポスター形式で発表を行う。</p> | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025 年 4 月末日までに 8 名程度探究アドバイザーを招聘し、5 月より探究アドバイザーによる指導を開始する。</li> <li>・2026 年 2 月末日までに以下を実現する。</li> </ul> <p>20 名程度の生徒が高大連携の探究活動に取り組む。</p> <p>5 名程度の生徒が高校生の科学研究をサポートする外部の組織を利用する。</p> <p>200 名程度の生徒が探究学習を行い、校内でポスター発表を行う。</p>                                                                                                                                                                                                              |
|                                                                                                                                                                                             | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2、3 年次の理科選択の授業において、個々の生徒が探究学習を進められるよう指導する。2 月に全員がポスター発表及びレポート作成を行う。</li> <li>・直接の指導は探究アドバイザーが行う。探究アドバイザーは月に 1 回対面で指導、必要に応じてオンラインを利用する。担当教員は探究アドバイザーと定期的に打ち合わせを行い、探究アドバイザーの指導状況を確認する。</li> <li>・希望する生徒には、本学理学部で実験や研究指導の受講、また、日本科学協会のサイエンスメンタープログラムに応募する機会を設ける。</li> </ul>                                                                                                                                                                 |
|                                                                                                                                                                                             | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|                                                                                                                                                                                             | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025 年度は、3 年次理科選択の授業において約 210 名が探究学習に取り組み、2 月にほぼ全員がポスター発表およびレポート作成を行った。2 年次では約 90 名が 1 月より探究を開始し、テーマ設定や計画立案に取り組んでいる。</li> <li>・8 名の探究アドバイザーが対面およびオンラインで指導を行い、生徒の状況に応じて、平均月 1 回程度の指導を実施した。</li> <li>・Micro Optics Conference において 3 チーム（6 名）が英語で発表、繊維学会にて 4 名の生徒が発表、また本学理学部にて実験・研究指導を受けた。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：80%</p> <p>中期計画では「全生徒が探究学習に取り組むこと」を目標としているが、2025 年度に実際に取り組んだ生徒は全体の約 6 割にとどまっているため。</p> |
| イ) 科学的探究学習の基礎的な素養を養うため、1、2 年次の実験授業において、探究基礎の全内容                                                                                                                                             | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2026 年 2 月までに PC を用いたデータ処理の授業および補習を 4 回実施する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

|                                                                                                                             |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>が定着するよう指導する。</p>                                                                                                         | 活動概要       | <p>・1、2年次を対象とし、1人1台PCを用いてExcelによる実験データの処理方法を学ぶ授業を行うとともに、定着を図るための補習を行う。2年次が終了する頃には、計算やグラフ作成などの基本的な処理を習得し、それらが手段として使用できるようになることを目指して指導計画を立てる。</p>                                                                                                                                                                                                     |
|                                                                                                                             | 2025年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|                                                                                                                             | 達成状況       | <p>・2年次の理科選択の授業において、1人1台PCを活用し、実験データの処理方法やWordによるレポート作成方法について、計3回程度の指導を行った。あわせて、ExcelやWordで提出されたレポートを丁寧に添削・返却し、再提出を求めるなど、きめ細かな指導を実施した。その結果、2年次終了時に基本的な操作やレポート作成技能について、一定程度自立して活用できるようになった。</p> <p>2025年度事業計画に対する進捗度：90%</p> <p>中期計画に対する進捗度：70%</p> <p>2025年度は1年次からの実施を開始することができなかった。また、中期計画では全生徒を対象とすることを目標としているが、2025年度の実施対象は全体の約6割にとどまっているため。</p> |
| <p>④STEAM教育を推進するための教育施設の検討</p> <p>ア)ラーニングコモنزの設置</p> <p>「自ら考え、自ら学び、自ら行う」生徒育成の教育方針をSTEAM教育において実現するために、ラーニングコモنزの設置を検討する。</p> | 到達目標       | <p>・年度内に、演習室B・Dの改修を行う。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|                                                                                                                             | 活動概要       | <p>・改修計画に基づき作業を行う。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|                                                                                                                             | 2025年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|                                                                                                                             | 達成状況       | <p>・演習室Bの改修を実施した。</p> <p>2025年度事業計画に対する進捗度：50%</p> <p>中期計画に対する進捗度：50%</p> <p>演習室Bについては完了した。演習室Dについては来年度予算を確保したので、来年度実施する。</p>                                                                                                                                                                                                                       |

|                                                   |             |                                                                                                 |
|---------------------------------------------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| イ) 自習スペースの設置<br>STEAM 教育の個別の学びのために自習スペースの設置を検討する。 | 到達目標        | ・演習室 B・D の改修とあわせて自習スペースの設置計画案を立案する。                                                             |
|                                                   | 活動概要        | ・計画案を検討する。                                                                                      |
|                                                   | 2025 年度事業報告 |                                                                                                 |
|                                                   | 達成状況        | ・株式会社トモノカイと連携した自習室の導入を決定し、2026 年度 4 月から導入予定。<br><br>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%<br>中期計画に対する進捗度：100% |

### (3) キャリア教育の推進

| 中期計画 行動目標                                                                                                                    | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 生徒がライフデザイン・キャリアデザインを主体的に構築し、良き市民として社会的責務を自覚し、心身共に健康で豊かな生活を送ることができるよう、プラス $\alpha$ の学びや自治活動等をさらに活性化することにより、人生の基盤となる汎用能力を育成する。 | 到達目標        | ・全校生徒を対象として、ライフデザインとキャリアデザインを考えシチズンシップを理解し健康の重要性を認識する特別授業を実施する。<br>・土曜等特別講座【知の泉】において課題対応力を育む「現代社会を見つめる講座」やキャリアプランニングに繋がる「多様な進路を考える講座」を開講する。<br>・主体的な進路選択につながるよう、高大接続プログラムの提供を充実させる。<br>・総合的な探究の時間や自治活動等を通して、自己を見つめ多様な価値観を認め、話し合いによって周囲と協働し成し遂げる経験を積む。<br>・アントレプレナーシップ教育のプログラムの実施の可否を決定する。 |
|                                                                                                                              | 活動概要        | ・ライフデザイン・キャリアデザインを考える特別授業を実施する。<br>・シチズンシップ教育のための特別授業を実施する。<br>・ヘルスリテラシーを獲得するための特別授業を実施する。<br>・土曜等特別講座【知の泉】「現代社会を見つめる講座」にて、講義や討論、小論文作成等を通して課題対応力を育む。<br>・大学との高大接続プログラム並びに【知の泉】「多様な進路を考える講座」への参加を通して、キャリア形成について学ぶ。<br>・総合的な探究の時間としての軽井沢セミナーや、ロングホームルーム、高                                   |

|      |  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------|--|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 達成状況 |  | <p>校生活研究セミナー等での話し合いを通して、自己を見つめ、他者の意見を聞き取り、合意形成を図り、人間関係を構築し社会形成力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治活動（部、委員会、クラブ、行事等）を通して、話し合いの場を活用して企画・運営能力を育成し、共通の目標に向かって協働して成し遂げる体験を積む。</li> <li>・2024年度に行った「未来課題検討プログラム～アントレプレナーシップ教育～」を省察し、実施を検討する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|      |  | 2025 年度事業報告                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|      |  | <p>1. 活動内容と成果</p> <p>(1) 特別授業を実施した結果、シチズンシップ教育・ヘルスリテラシーに関して、生徒の自己理解と将来設計に対する意識の向上がみられるとともに、社会的視点や精神面を含めた健康管理意識が強化された。自尊感情アンケートを実施し、小中高生の自尊感情の変化を確認した。今後もアンケートを実施し、生徒指導に活かしていく。</p> <p>(2) 土曜等活用講座の開催により、講義・討論・小論文作成・演習等の体験を通じて、生徒は問題に対する関心をさらに深めて課題を自ら見出し解決していく姿勢が大いに養われた。</p> <p>(3) 高大接続プログラムへの参加によって、将来を見据えた上での進路選択の積極的主体性が向上した。</p> <p>(4) 軽井沢セミナー・ロングホームルーム・高校生活研究セミナー（八王子セミナー）等における話し合いを通じて、多種多様な価値観の存在の理解と合意形成能力が育成された。</p> <p>(5) クラブ活動・委員会活動・係活動等の自治活動を通じて、企画運営能力や協働性が向上し、将来に向けての基礎的な社会形成力を育成することができた。</p> <p>(6) アントレプレナーシップ教育については、社会福祉学科の永井暁子先生を通じて、現代女性キャリア研究所との高大連携への道筋が開かれた。今年度は額田春華先生による高校教員対象の研究会「三綱領とアントレプレナーシップ教育」が実施された。来年度に向けて引き続き連携の深化を図るとともに、永井先生による高校生対象の授業の実施も検討された。</p> <p>2. 総括</p> <p>各活動は目標に向けて計画に基づき円滑・着実に実施され、生徒の成長が確実に認められたのみならず、携わった教員の認識も深化し、設定した到達目標は概ね達成されたと評価できる。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> |

|  |                  |
|--|------------------|
|  | 中期計画に対する進捗度：100% |
|--|------------------|

## 2. 入学者の安定的な獲得

少子化により、受験市場が縮小する中においても、入学者の安定的獲得と資質確保のため、教育の質の向上を図るとともに、戦略的かつ積極的な広報活動を充実させる。

| 中期計画 行動目標                                                                            | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------------------------------------------------------------------------------------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学校説明会や見学・相談会等の実施及び Web や SNS 等を活用し、受験生とその保護者が教育理念や方針を理解できるような戦略的な広報活動を効率的かつ効果的に展開する。 | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校第一志望である質の高い意欲的な生徒を獲得し、入学定員充足率 100% を維持する。</li> <li>・昨年度までの広報の効果を検証し、より効率的かつ効果的な広報活動を企画立案し、実施する。</li> <li>・学校説明会、見学・相談会等の実施件数 30 件</li> </ul>                                                                                                |
|                                                                                      | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現入試制度を検証し、必要に応じて改変を視野に入れて検討する。</li> <li>・昨年度までの広報の効果を検証し、必要に応じてより効率的かつ効果的な広報活動を企画立案し、実施する。</li> </ul>                                                                                                                                         |
|                                                                                      | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|                                                                                      | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第一志望である意欲的な生徒を入学定員より 9 名多く獲得することが出来た。</li> <li>・効率的かつ効果的な広報活動を企画立案し、実施した。</li> <li>・学校説明会、見学・相談会等の実施件数 35 件</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：90%</p> <p>中期計画に対する進捗度：90%</p> <p>人数の確保は出来たが質の担保までは至っていないため。この点について、次年度入試の制度変更に関する検討を開始している。</p> |

## IV 日本女子大学附属中学校事業報告

### 1. 教育の質の向上

#### (1) グローバル化の推進

英語教育、国際理解、異文化理解教育の充実により、国際社会に貢献できる視野の広さとコミュニケーション力を育成する。

| 中期計画 行動目標                                                                                                                                                                              |      | 2025 年度事業計画                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>①英語教育機会の充実</p> <p>ア) 海外研修関連プログラムの充実と促進</p> <p>2024 年度より開始を予定しているシアトル研修を始め、その他海外研修関連プログラムを充実させる。</p> <p>また、留学奨学制度を制定し、外部検定試験において基準を満たした生徒に対し、留学奨学金等を支給することにより、英語学習及び海外研修参加を促進する。</p> | 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・Cheltenham Ladies' College での 2 週間の夏期研修実施(15 名)</li> <li>・Vancouver 夏期英語研修 2 週間実施(24 名)</li> <li>・Epsom Girls Grammar School (NZ) への 10 週間のターム留学(4 名)</li> </ul>                                                                                         |
|                                                                                                                                                                                        | 活動概要 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・NZ ターム留学の機会の拡充</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                |
|                                                                                                                                                                                        | 達成状況 | <p>2025 年度事業報告</p> <p>中 3 選択校外授業で行ったシンガポールコースを含め、4 つの海外プログラムを無事終了し、目標人数以上となる合計 64 名の生徒が本校の教員引率によるプログラムで海外経験を積むことができた。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：80%</p> <p>奨学金は来年度実施するカナダのプログラムに関して、国費の補助金を申請中。</p>                                                                      |
| <p>イ) 発展的な英語学習機会の提供</p> <p>体験型英語学習施設（選択校外授業British Hills、2023 年度に新設した Tokyo Global Gateway 立川での SDGs 学習、British Council 英語コース等）での英語学習機会を拡充する。</p> <p>拡充した英語学習機会に</p>                   | 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・Tokyo Global Gateway 立川（2 年生 25 名）</li> <li>・校内で TOEFL Junior / Primary のテストを実施し、受験を推進する(60 名)</li> <li>・校内で中 1 対象春期英会話集中プログラム(70 名)を実施</li> <li>・Mount Holyoke College のインターン学生との授業や交流（2 学年 504 名）</li> <li>・オーストラリアから役者を招き英語劇を校内で上演(1 年生全員)</li> </ul> |
|                                                                                                                                                                                        | 活動概要 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・希望者が国内で英語研修をする機会を拡充し、英語科において各学年のレベルに合ったプログラムを検討し、実施する</li> <li>・British Hills 研修を希望者で冬休み中または春休み中に実施可能か検討する</li> </ul>                                                                                                                                    |

|                                                                                                   |             |                                                                                                                                                                                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>ついて、外部検定試験において基準を満たした生徒に対する奨学金制度を制定することで参加を促進する。</p>                                           | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                   |
|                                                                                                   | 達成状況        | <p>目標のプログラムはすべて完遂し、目標人数以上の生徒が学校内で様々な授業外の英語学習の機会を得ることができた。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：80%</p> <p>教員の働き方改革の流れで、これ以上引率の負担を増やせず、British Hills 研修は保留となっている。</p> |
| <p>ウ) 教育機会（教材）の充実</p> <p>オンライン英会話やオンライン多読用教材等の授業内での活用により、全員参加を前提とする。</p>                          | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン多読教材（Oxford）を長期休暇中に導入する</li> <li>・オンライン英会話を授業内で生徒全員が行う（1人4回程度）</li> </ul>                                                            |
|                                                                                                   | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・Oxford POP コンテストへの参加を促進</li> </ul>                                                                                                        |
|                                                                                                   | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                   |
|                                                                                                   | 達成状況        | <p>オンライン英会話、オンライン多読教材に全校で取り組むことができた。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：100%</p>                                                                                   |
| <p>②国際理解、異文化理解教育の充実</p> <p>国内で実施可能な海外学生（オンラインや留学生）及び国際機関職員との交流機会を拡充することにより、生徒の国際理解、異文化理解を深める。</p> | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・Finland の中学生との SDGs をテーマにした Zoom 交流会（約 30 名）</li> <li>・マレーシア・シンガポール研修（選択校外授業の 1 コースとして）（30 名）</li> <li>・東京ジャーミイ（モスク）見学</li> </ul>         |
|                                                                                                   | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語を使って、英語を母国語としない人たちと交流する機会を拡充する</li> <li>・様々な文化・宗教を持つ人たちとの交流を通して、世界を見る目を養う</li> </ul>                                                    |

| 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                      |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標のプログラムを完遂し、目標人数を達成した。加えて、国連に勤めている卒業生（在タンザニア）からオンラインでお話をうかがうことができた。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：80%</p> <p>さらにオンラインでの交流先を求めて、韓国の女子中学校と交渉中。</p> |

## （２）STEAM 教育の推進

自らの課題を見出し、解決するための知識と行動力、及び ICT 機器を活用して、社会に必要な力を育成する。

| 中期計画 行動目標                                                                                                                                                                                                | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>①西生田キャンパスを活用した、PBL×STEAM 学習プログラム「生田の森プログラム（仮称）」を構築する。</p> <p>本校における活動を拡充し、他附属校園や大学、PTA、学外団体と連携した活動を実施することにより、2026 年度までに中学 3 年間を通して、西生田キャンパスの森を題材とした「課題解決型学習（PBL）」のカリキュラム化を図り、2030 年度まで実践と改善を繰り返す。</p> | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生田の森」シンボルマークの浸透、活用範囲の拡大</li> <li>・「生田の森」関連の特別授業の実施と約 30 名の生徒参加</li> <li>・総合的な学習を通して「生田の森」に対する興味関心の喚起、学習活動への参加の促進</li> <li>・保護者と生徒が参加する森の保全活動（冬季 1 回・施設課主催）を支援し、恒例行事としての定着化、リピーターの獲得</li> </ul>                                       |
|                                                                                                                                                                                                          | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンボルマークの活用促進と生徒への説明を行う</li> <li>・専門的な知見を持つ講師（ゲストティーチャー含）による特別授業を行う</li> <li>・総合的な学習の「1 年・自校教育」、「3 年・年間研究（のテーマ選び）」において、生田の森に関する情報提供（講義・資料配布）を行う</li> <li>・施設課主催に移行した保全活動について、より保護者と生徒が参加しやすい催事となるように企画内容の提案、保護者・生徒との連絡調整を担う</li> </ul> |
|                                                                                                                                                                                                          | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|                                                                                                                                                                                                          | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンボルマークの活用は一部に止まった。</li> <li>・森に親しむことを目的としたワークショップ（自然観察と森での採集物を使ったクラフト）を 3 月に実施した。</li> <li>・総合での情報提供はできなかったが、社会科（地理）で校地を散策し、生田の森と多摩丘陵について学んだ。</li> <li>・施設課に協力して保全活動を実施した。今年度も 100 名を超える附属校園の保護者・生徒らが参加し、年間行事として定着した。</li> </ul>     |

|                                                                                                                                                                                                                        |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                                                                                                                        |             | <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：70%</p> <p>中期計画に対する進捗度：40%</p> <p>特別授業については、教育重点化資金を申請したが不認可だったため、年度末 1 回の限定的な実施となった。総合は学年単位で限られた時間で行われており、生田の森に関連付ける機会を設けられなかった。シンボルマークは周知したものの、活用促進のための施策が十分でなかった。</p> <p>森を使った教育は教科(内)、教科外を問わず、従来通り行われているが、森に関する探究プログラムは、2027 年度中高一体化に向けたカリキュラムの見直しに含まれており中学単独での構築は保留とした。今年度 2 月に発足した中高探究 WG の中で検討を行う。</p>                                                                                                                                                                                                           |
| <p>②プログラミング教育、デジタルテクノロジー教育及びデータサイエンス教育を充実させる。</p> <p>技術・家庭科における情報分野の拡充、他教科での「情報」授業の実践やプログラミング教材の活用、特別授業(教材開発業者やプログラミング教育支援 NPO との連携事業、大学教員による特別授業等)の開講、プログラミングクラブの新設等により、プログラミング教育、デジタルテクノロジー教育及びデータサイエンス教育を充実させる。</p> | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術・家庭科における情報分野の授業時間数<br/>28 時間 (1 年次 12 時間 2 年次 6 時間 3 年次 10 時間)</li> <li>・特別授業の講座開講数 2 件<br/>長期休暇(夏期・冬期)にプログラミングの特別授業を実施予定(各 40 名)</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|                                                                                                                                                                                                                        | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・技術・家庭科における情報分野の拡充として、2023・2024 年度に引き続き、2025 年度も、「みんなのコード」との連携授業を実施する。また、特別授業では他教科と連携しながらプログラミング講座を実施する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|                                                                                                                                                                                                                        | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|                                                                                                                                                                                                                        | 達成状況        | <p>技術・家庭科における情報分野の授業時間数は 33 コマ(1 年次 14 コマ 2 年 7 コマ 3 年次 12 コマ)実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1 年生の授業(4 コマ)に関しては、昨年同様みんなのコードの他にキンドリルの社員にサポートしていただいた実施となった。</li> <li>・また今年度は、新たに全学年での生成 AI の扱い方の授業を技術・家庭科内で行った。</li> <li>・特別授業の講座開講数 5 件 参加者 90 名(予定を含む)</li> <li>・SONY 社会課題解決&amp;モノづくり体験ワークショップ(中高合同)</li> <li>・生成 AI でホームページ作成(中高合同)</li> <li>・生成 AI で 4 コマ漫画を作ろう(中高合同) 3 月開催予定</li> <li>・デザイン・シンキングで未来をデザインしよう(SAP ジャパン)</li> <li>・技術・家庭科 特別講座(レーザー加工機使用)</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：78%</p> |

|                                                                     |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------------------------------------------------------------------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                     |             | 中期計画全体では、技術・家庭科の授業時間数を他分野の内容と調整しながら徐々に増やしていく段階のため                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| ③ ICT 機器を活用した STEAM 教育及び AL 教育を<br>実践するために、キース<br>ペースを開設し、活用す<br>る。 | 到達<br>目標    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者用共用 PC の活用促進のための取り組みの実施</li> <li>・授業や放課後活動における演習室 A の活用促進のための取り組みの実施</li> <li>・演習室 C のレイアウト計画の立案及び改修工事を実施する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|                                                                     | 活動<br>概要    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業以外でも共用 PC を使用する幅を広げ、タブレット以外の端末に触れる機会をもつ。また、目的に応じて ICT 端末を選定できるようにする。</li> <li>・グループで作業することの多いクラブ活動や自治活動で演習室 A の使用機会を増やす。</li> <li>・演習室 C は、演習室 A と同様の機能で 2 教室併せて使える教室になるようレイアウトや什器の選定をする。また、すでに購入している 3D プリンタやレーザーカッターを設置し、ラボのような空間にする。</li> </ul>                                                                                                                                                                                     |
|                                                                     | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|                                                                     | 達成<br>状況    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025 年度冬休みに演習室 C の改修が完了。可動式の椅子 24 脚と机 6 台、カウンターにハイチェア 6 脚を配置。また、壁面には 3 台のプロジェクターを設置。</li> <li>・3D プリンタとレーザーカッターを配置して生徒が自由に使用できる環境を整えた。</li> <li>・演習室 A を「SAKU_Lab」、演習室 C を「LEAF_Lab」として改名し、授業や自治活動などで生徒の活用頻度も上がっている。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：90%</p> <p>中期計画に対する進捗度：100%</p> <p>演習室 C の改修が完了し、演習室 A とあわせて創造的な空間としての活用可能性が込められた教室になった。</p> <p>LEAF_Lab は 3 学期直前での完成になってしまったため、限られた授業や活動での教室使用にとどまっている。来年度以降、更なる活用機会を作っていきたい。</p> |
| ④ 学校図書館の「PBL × STEAM 教育を支える機能」を強化し、自らの課題を見出し、解決するための                | 到達<br>目標    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記事データベースとジャパンナレッジ School（オンライン図書館）の継続した活用の推進</li> <li>・書籍とデータベースのさらなる活用（各教科・学活・道徳・総合・学校行事）</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

|              |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 知識の習得に、活用する。 | 活動概要        | ・オンラインデータベースに学内外からアクセスできる環境が整ったことを生かし、さらに生徒たちの利活用を浸透させる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|              | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|              | 達成状況        | <p>・ジャパンナレッジ School と新聞オンラインデータベースの学園予算による継続利用の達成。</p> <p>・1 年生 使い方の指導を授業内でおこなった。</p> <p>・2 年生 総合的な学習の時間（東北校外授業事前学習）で利用の呼びかけ。</p> <p>・3 年生 総合的な学習の時間（年間研究）で利用の呼びかけ。</p> <p>・3 学年 長期休みの課題に合わせて、情報源としてプリントに載せて紹介（国語、社会）</p> <p>・各教科での生徒の利用・教員の授業関係利用（国語ディベート、社会国調べ、英語意味調べ、国語古典全集の利用など）</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：80%</p> <p>各教科内で教員の裁量によって利用している状況が大きく、学校として利用が計画的・体系的に行われていないため。</p> |

### （３）キャリア教育の推進

| 中期計画 行動目標                                              | 2025 年度事業計画 |                                                                         |
|--------------------------------------------------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 社会で活躍する卒業生など学外の多様な人々とのかかわりの中で、グローバルな視点を持ち、将来を見通しながら自らの | 到達目標        | <p>・ようこそ先輩(中 1)・国際理解教室(中 2)・キャリア教室(中 3)の実施</p> <p>・外部団体による金融教育講座の実施</p> |

|                           |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|---------------------------|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 生き方を考え主体的に進路を選択できる力を育成する。 | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年で卒業生や世界で活動をする方々と関わることで、キャリアの様々な選択肢を知り、自分のあり方を考える機会を持つ。</li> <li>・選択校外授業シンガポールコースにて現地で働いている卒業生からお話を伺い、海外で働くことについて理解を深める。</li> <li>・金融教育講座を通して、自分の思い描く人生設計やそれを実現するためのお金の知識を身につける。</li> </ul>                                                                                                                |
|                           | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|                           | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生のようこそ先輩、2年生の国際理解教室、3年生のキャリア教室を今年度も実施し、キャリアや自身のあり方について考える機会を持つことができた。</li> <li>・選択校外授業シンガポールコースで卒業生のお話を伺い、理解を深めることができた。</li> <li>・合同会社フラタニティによる金融教育講座を実施し、90%以上の生徒が、人生設計や金融経済に対する関心を高めることができた。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：80%</p> <p>金融教育講座を継続的に実施するための団体を検討していく必要があるため。</p> |

#### (4)「年間研究」の継続実施

| 中期計画 行動目標                                                                       | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                        |
|---------------------------------------------------------------------------------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>中学3年生が1年間かけて、自分の興味のあるテーマについて研究を行う。これにより、生徒が自らの課題を見出し、解決するための知識と行動力を育成する。</p> | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・例年行っている年間研究をさらに充実した内容とするための方針を決定し、実行する。</li> </ul>                                             |
|                                                                                 | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインデータベース、ジャパンナレッジ school の積極的な利活用を促進する。</li> <li>・附属高校、大学教員との連携を模索し、可能な分野から連携する。</li> </ul> |

| 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 達成状況        | <p>オンラインデータベース、ジャパンナレッジスクールについては、昨年に引き続きテーマ設定時に利用し、研究でも随時活用できた。大学教員に生徒を繋げ指導してもらうという新しい試みを夏休みに行うことができた。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：40%</p> <p>1 学年約 250 名のうち、大学に繋ぐことができた 10 名の生徒だけでなく、より多くの生徒にも機会を与え、更に連携を促進したい。</p> |

## 2. 入学者の安定的な獲得

少子化により、受験市場が縮小する中においても、入学者の安定的獲得と資質確保のため、教育の質の向上を図るとともに、戦略的かつ積極的な広報活動を充実させる。

| 中期計画 行動目標                                                                                        | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>安定的な入学者の獲得のために、Web や SNS、媒体を活用した広報活動や個別対応型広報活動、中学受験生向け大学キャンパスツアー、近隣住民との交流等の多角的な広報活動を展開する。</p> | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学定員充足率 100%を維持する。</li> <li>・教員間の広報戦略意識統一を図り、より効果的な広報活動を目指す。</li> <li>・塾への訪問機会 300 件（教員・委託サービスの合計）</li> <li>・塾主催の説明会や体験会への参加回数 10 回</li> <li>・Facebook を週 3 回更新、Instagram を週 2 回更新する。</li> <li>・LINE アカウントを開設して、イベント情報を発信。</li> <li>・「お花見の会」において近隣住民 20 名の参加を目指す。</li> </ul>                                                                                  |
|                                                                                                  | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部委託サービスを利用しながら、受験生を送り込んでくれる塾への訪問機会を増やし、本校の教育活動を広報する。</li> <li>・塾が主催する説明会や体験会などに積極的に参加し、受験生・保護者に本校を広報する。</li> <li>・行事の HP への掲載、日常の様子を Facebook や Instagram へ投稿する。</li> <li>・LINE アカウントを開設して、広報イベント情報を積極的に発信する。</li> <li>・受験生の身近なロールモデルとして本校生徒「広報サポーターズ」の活動を支援する。</li> <li>・近隣の方々への広報活動として「お花見の会」を開催する。</li> <li>・現在行っている説明会・個別見学対応を分析し、必要に応じて拡充する。</li> </ul> |

| 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 達成状況        | <p>・入試日程（サンデーショック※）の影響もあり、各校で手続き状況が例年とは異なり、基準通りに繰り上げ合格も行ったが、最終的な入学定員充足率は97%となり、定員の充足には至らなかった。</p> <p>※2/1 が日曜日のため入試を行わない学校があり、例年とは異なる出願・併願パターンとなる現象。</p> <p>・塾への訪問件数は教頭と広報主任で 99 件、委託サービスで 150 件。</p> <p>・塾主催の説明会への参加 10 回</p> <p>・Instagram と Facebook は生徒日常及び広報イベントについて登校日に更新。HP は主に行事に合わせて更新。LINE 公式アカウントを利用して、広報イベントに合わせた発信は月 2 回程度。</p> <p>・学内説明会及び他校での合同相談会等では「広報サポーターズ」の活動も合わせて実施。</p> <p>・「お花見の会」は 3/31 に実施した。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：90%</p> <p>中期計画に対する進捗度：97%</p> <p>定員充足に至らなかったことに加えて、27 年度の中高一体化に向けての検討・準備も始まり、教員の塾訪問件数が目標に到達できなかったため。</p> |

## 1. 教育の質の向上

### (1) グローバル化の推進

英語授業の充実を図ると共に、海外交流体験として希望者のホームステイ、学年全員参加による国際交流、大学留学生との交流プログラム等を通して、異文化への理解を深め、世界へつながる教育として、一層のグローバル化を図る。

| 中期計画 行動目標                                                                                | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>①国際交流の機会を拡充する。</p> <p>ア) 海外ホームステイの実施</p> <p>イ) 8 か国ワールドツアーの継続</p> <p>ウ) 大学留学生との交流</p> | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・5 年生 海外ホームステイの実施。</li> <li>・5 年生 8 ヶ国ワールドツアーの年 1 回実施。</li> <li>・4 年以上 大学留学生やインターンシップの学生との交流を年 1 回実施。</li> <li>・Homei Summer School (以下 HSS) 2025 を実施するにあたり、英語クラスに関してより保護者・参加者のニーズに合ったものを提供する。</li> <li>・HSS 英語クラスでは児童が自分の意見を英語で発表できるようになることを目指す。</li> </ul>                                              |
|                                                                                          | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際交流課と連携し、2024 年度活動内容の検証及び 2025 年度実施に向けた準備を進める。</li> <li>・シェーン英会話教室と担当学年が連絡を取り、8 か国ワールドツアーを実施する機会を設ける。</li> <li>・国際交流課と英語担当者が連絡を取り、大学留学生やインターンシップの学生と交流する機会を設ける。</li> <li>・HSS 英語クラスの内容に、小学校教員の英語担当者が助言する。</li> <li>・HSS 英語クラスで自分の意見を英語で発表するためのプログラムを導入する。</li> </ul>                                    |
|                                                                                          | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|                                                                                          | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・5 年生 海外ホームステイの実施済み。</li> <li>・5 年生 8 ヶ国ワールドツアーの年 1 回実施済み。</li> <li>・4 年以上 大学留学生やインターンシップの学生との交流を年 1 回実施済み。</li> <li>・HSS2025 を実施するにあたり、英語クラスに関してより保護者・参加者のニーズに合ったもの(クラス数増等)を提供することができた。</li> <li>・HSS 英語クラスでは児童が自分の意見を英語で発表する機会を設け実施した。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：70%</p> |

|                                                                                                                     |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                     |             | <p>8 カ国ワールドツアーは、外部委託から国際交流課(留学生交流)の中で実施することができた。</p> <p>海外ホームステイに関しては 2026 年度春以降の交渉事項のため未達成とした。</p>                                                                                                                                                                                                                                                      |
|                                                                                                                     | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1～3 年 引き続きチャンツや歌を活用し、言えるフレーズを現状より 3 文増やす。</li> <li>・6 年生 dolch sight words を 125 語読めることを目指す。</li> <li>・4～6 年生 引き続きスピーチの能力を育成する(1 学期末までに 3 文、2 学期末までに 4 文、3 学期末までに 5 文)。</li> <li>・5、6 年生 80%の児童が CEFR 基準の A1 レベルに到達する。</li> </ul>                                                                                |
| <p>②英語でスピーチできる能力を養う</p> <p>国際的感覚を養うための校内環境作りを図ると共に、英語担当者を 1 名増員し、少人数のクラス編成で会話の機会を増やすことで、英語でスピーチできる能力を育む教育を強化する。</p> | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1～3 年 チャンツや歌の充実を図り、発音を強化する(1 年 phonics)。</li> <li>・文字指導を強化する(1 年 phonics 3 年 penmanship)。</li> <li>・4～6 年生 引き続き各学期にスピーチの機会を設ける。</li> <li>・CEFR A1 到達を目指すにあたり教科書に付随する有料コンテンツ Smile Textbook Premium 版を導入し、活用する。(AI 会話アプリを活用し、教員と児童間の発話時間を 2 倍にする。)</li> </ul>                                                     |
|                                                                                                                     | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|                                                                                                                     | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1～3 年 言えるフレーズをチャンツや歌を通して 3 文増やした。</li> <li>・6 年 dolch sight words 125 語読める児童は現状 84% (アンケート集計)</li> <li>・4～6 年スピーチの機会を設けた。5 文のスピーチは達成できた。</li> <li>・5、6 年 CEFR 50%の達成。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：80%</p> <p>中期計画に対する進捗度：50%</p> <p>達成できていない理由として、個々の児童の会話の時間を十分に確保できていない。引き続きクラス少人数化に向けて環境作りを整える必要がある。</p> |

## (2) STEAM 教育の推進

日々の授業・活動において実物教育・自学自動の学びを重視し、探究的活動を促進する。2年生からの1人1台ipad導入により、情報授業でのスキルアップとプログラミング、他教科との連携、ICTの活用による発表活動等アクティブラーニングを促進するとともに、教科横断的な学習を通して、自ら課題を発見して解決することで探究的な見方、考え方を養う。

| 中期計画 行動目標                                                                                                       | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>①各教科において、各単元に STEAM 教育の要素を含める。</p> <p>②教科横断的な連携授業を実施し、2024 年度中に STEAM 教育を柱としたカリキュラムを構築し、その後は実行、検証、改善を行う。</p> | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科横断的な連携授業のカリキュラムを作成の継続、及び反映する内容についての実施と検証。</li> <li>・Homei Summer School (以下 HSS) 2025 を実施するにあたり、HSS2025WG において、STEAM 教育に関して独自のコンテンツ開発を目指す。</li> <li>・全学年で段階的なデジタル・シティズンシップの授業を実践する。</li> <li>・教員の ICT スキルアップを目指した研修の実施。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                   |
|                                                                                                                 | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科横断的なカリキュラム作成に向けて議論を重ね、意見のすり合わせを行うことで豊明小学校の STEAM 教育について、全教員で共通認識を持つ。</li> <li>・HSS 理科実験クラスの内容に、小学校教員の理科担当者が助言する。</li> <li>・HSS プログラミングクラスの内容に、小学校教員の情報教育担当者が助言する。</li> <li>・デジタル・シティズンシップを養う「6 領域」の授業を実践する。</li> <li>・AI 分野を想定した教員向け ICT スキルアップ研究を実施する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                   |
|                                                                                                                 | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|                                                                                                                 | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・HSS 理科実験、プログラミングともに小学校教員が助言を行った。</li> <li>・デジタル・シティズンシップの授業をカリキュラムに沿って実施した(5年生は今度珠美先生による授業も実施)。</li> <li>・生成 AI の活用について教員向けの講座をオンラインで2回開催した。小学校だけでなく、幼稚園、中学校、高等学校、職員も参加し、当日の Zoom とアーカイブ動画で視聴した。参加者に好評を得た。今後も AI の活用方法の研究は学園全体的に進め、研修の実施を検討されたい。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：80%</p> <p>中期計画に対する進捗度：50%</p> <p>カリキュラムの実行と検証の期間であったが、今年度は、2026 年度に迎える小学校 120 周年記念に関連した行事を行ったことから、教科横断的なカリキュラムの機会や、教員向け ICT スキルアップ(生成 AI の活用)の研修の回数が想定よりも少なかった。</p> |

### (3) キャリア教育の推進

| 中期計画 行動目標                                                                                            | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>児童が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身につけていくことができるよう、道徳や総合等の授業でキャリア教育の充実を図る。</p> | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校行事、日記指導、告別講演記念講演、縦割り活動、異学年交流、児童会活動、職業調べ、ドリームツリー等の活動の実施。</li> <li>・Homei Summer School（以下 HSS）2025 を実施するにあたり、HSS2025WG において、キャリア領域でのコンテンツを開発・導入する。</li> <li>・児童が自分の特徴を理解し、自分を適切に表現する方法を身につけながら、自己肯定感を高めていけるよう導く。</li> <li>・お互いを理解し、思いやりを持ちながら学校生活を送ることで、協調性を身につけていけるよう支援する。</li> <li>・体験を通して自分事として多様な分野について学び、自分の将来を思い描くことができるよう導く。</li> </ul>                      |
|                                                                                                      | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校行事、日記指導、告別講演記念講演、縦割り活動、異学年交流、児童会活動、道徳や総合授業など、それぞれの実践を通して、発達段階に沿った児童の成長を促す。</li> <li>・HSS キャリア教育のクラスの内容に、小学校教員が助言する。</li> <li>・自尊感情アンケート・優位感覚アンケートを実施・分析することで、それぞれの自己理解を助け、自己肯定感を高められるよう導く。また、新たなことや困難なことにも挑戦しようとする意欲を高められるよう促す。</li> <li>・児童がボードゲームや金融講座を通して、身近なお金の流れや機能を知り、お金が社会でどのような役割を果たしているのか理解できるような機会を設ける。</li> </ul>                                       |
|                                                                                                      | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|                                                                                                      | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳、総合、特別活動の授業や活動において、キャリア教育の目標を意識しながら実践を重ねた。</li> <li>・特に金融教育について、自分の生活にかかるお金を、講座を通して学年の発達段階に応じて意識できた。また、需要と供給の関係や、モノやサービスに対する「感謝」の対価としての「お金」の存在にも気づく機会が得られた。</li> <li>・自尊感情アンケート結果を 4 年保護者にフィードバックし、家庭の協力を仰ぐとともに、新年度に自尊感情を高めるワークを実施する計画を立てた。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：90%</p> <p>中期計画に対する進捗度：90%</p> <p>様々な計画は立てたが、授業時間との兼ね合いにより、今年度は実施できないプログラムがあったため。</p> |

## 2. 入学者の安定的な獲得

少子化により、受験市場が縮小する中においても、入学者の安定的獲得と資質確保のため、教育の質の向上を図るとともに、戦略的かつ積極的な広報活動を充実させる。

| 中期計画 行動目標                                                                                                                                                   | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>入学志望者の安定的獲得と資質確保のため、広報部を中心とした広報活動を継続する。幼児教室対応や学校公開行事等及び Web や SNS を活用し広範囲に向けて発信を行い、より有効な広報計画を策定する。また、本校の教育特色と受験生保護者のニーズが結びつく内容を焦点化し、その教育活動を重点的に発信する。</p> | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学定員充足率 100%の維持。</li> <li>・本校HPの「みんなの様子」の4回／月更新。</li> <li>・SNS(インスタグラムを中心に)の年48回発信。</li> <li>・学内説明会(1回)・オープンスクール(2回)・授業見学会・個別相談会・幼児教室対象説明会、学外説明会(7回)の実施。</li> <li>・幼児教室・模擬試験会場・学内会場での校長講演(10回)の実施。</li> </ul>                                                                                                                                         |
|                                                                                                                                                             | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・面接および入試日程の見直しを行い、受験者数の動向を検証する。</li> <li>・本校の教育内容をテーマに動画を制作し、本校の教育の特色を発信する。</li> <li>・広報活動のフィードバックを行いながら、受験生家庭にとっての豊明小学校の立ち位置を常に意識し、乖離しないよう努める。</li> </ul>                                                                                                                                                                                             |
|                                                                                                                                                             | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|                                                                                                                                                             | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学定員充足率 100%を達成。</li> <li>・本校HPの「みんなの様子」の4回以上／月更新を達成。</li> <li>・SNS(インスタグラム中心)の年48回以上発信を達成。</li> <li>・学内説明会(1回)・オープンスクール(1回)・授業見学会(2回)・個別相談会・幼児教室対象説明会、学外説明会(6回)を実施した。</li> <li>・幼児教室・模擬試験会場・学内会場での校長講演(10回以上)を実施した。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：90%</p> <p>中期計画に対する進捗度：90%</p> <p>受験生のニーズに合わせオープンスクールを授業見学会に振り替え、また、学外説明会は来場者数の少ない会場を外したため。</p> |

## VI 日本女子大学附属豊明幼稚園事業報告

### 1. 教育の質の向上

#### (1) 教員の資質の向上

| 中期計画 行動目標                                                                                                       | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>現在実施している教員による自己評価を発展させ、園長による面談の全員実施や評価の数値化の導入を検討する。</p> <p>教員の研修機会を充実させ、教員全員のレベルアップを目指し、全員が毎年3回は研修に参加する。</p> | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・園長による面談を教員全員に実施する。</li> <li>・数値を用いた自己評価を実行する。</li> <li>・教員全員が年3回以上の研修に参加し、研修報告会を実施する。</li> </ul>                                                                                                                  |
|                                                                                                                 | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・試行した評価について、再考、検討する。</li> <li>・教員全員が研修会に参加する。</li> </ul>                                                                                                                                                           |
|                                                                                                                 | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                           |
| <p>①グローバル化に対する教員の資質向上</p> <p>児童学科学生対象のニュージーランドの保育・幼児教育研修に教員も参加する等、教員の資質向上のために様々な研修を受け、教員同士で共有する。</p>            | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員全員に園長面談を実施した。</li> <li>・昨年度試行した数値を用いた評価について再考、検討したものを使用し、自己評価を実施した。</li> <li>・教員全員が年3回以上の研修に参加した。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：80 %</p> <p>中期計画に対する進捗度：70%</p> <p>研修報告会が実施できなかった。また、自己評価の検討・見直しを継続して行う。</p> |
|                                                                                                                 | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル WG での内容を保育に活用する。</li> <li>・2025 年度以降に児童学科学生対象のニュージーランドやスウェーデンの保育・幼児教育研修に参加するための計画を策定する。</li> </ul>                                                                                                          |
|                                                                                                                 | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル WG での内容を共有する。</li> <li>・グローバル化につながる研修を検討する。</li> </ul>                                                                                                                                                      |
|                                                                                                                 | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                           |
|                                                                                                                 | 達成          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル WG での内容を共有し、保育のなかでの各学年の取り組みを教員間で話し合った。</li> </ul>                                                                                                                                                           |

|                                                                               |                  |                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                               | 状<br>況           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル化につながる研修は今年度も探したが、実施には至らなかった。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：50%</p> <p>海外研修を実施できなかったため</p> <p>中期計画に対する進捗度：50%</p> <p>海外以外の研修も視野にいれて再検討するため</p>                                                  |
| ②STEAM 教育に対する教員の資質向上<br>自然科学的な学びについて、より専門的な知識を得るために、教員向け園外・学内の専門教員による研修を実施する。 | 到<br>達<br>目<br>標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然科学的な学びに関する研修内容を実践する。</li> </ul>                                                                                                                                                                       |
|                                                                               | 活<br>動<br>概<br>要 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修で得た知識をいかし、園庭の整備をする。</li> <li>・STEAM 教育に関する研修に参加する。</li> </ul>                                                                                                                                         |
|                                                                               | 2025 年度事業報告      |                                                                                                                                                                                                                                                 |
|                                                                               | 達<br>成<br>状<br>況 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生き物を呼ぶ植物や遊びに使える植物を植えるなど、研修で得た知識をいかし、植栽など園庭の整備を実行した。</li> <li>・各教員が STEAM 教育に関する研修（生成 AI に関する研修など）に参加した。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：60%</p> <p>研修での学びを引き続き実践に生かしていくため。</p> |

## （２）グローバル化の推進

| 中期計画 行動目標                                                                    | 2025 年度事業計画      |                                                                                                                                                 |
|------------------------------------------------------------------------------|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日本の伝統や文化も大切にしながら、ツールとしての英語だけでなく多様な文化や人に触れることで経験を広げていくこととし、幼児なりの多文化の理解を目標とする。 | 到<br>達<br>目<br>標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・園児が多文化について様々なことに興味関心をもつ。</li> <li>・Homei Summer School（以下 HSS）2025 の実施にあたり、園児のグローバル体験の実を上げる。</li> </ul> |
|                                                                              | 活<br>動<br>概<br>要 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、異なる文化をもつ人々と園児との触れ合いの場を設ける。</li> <li>・HSS 運営側で検討するにあたり、幼児の発達段階に応じた適切性を踏まえて助言する。</li> </ul>          |

|                                                                                                |             |                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                    |
|                                                                                                | 達成状況        | <p>・英語教員や留学生など異なる文化をもつ人々と園児との触れ合いの場を設けた。</p> <p>・HSS 運営側で検討するにあたり、幼児の発達段階に応じた適切性を踏まえて助言した。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：60%</p> <p>様々な経験ができるように継続して取り組むため</p> |
| <p>①英語を使って遊ぶことで、英語に慣れ親しむ</p> <p>英語教員の時間数を増やすことで、より多く英語に触れる機会をつくる。</p>                          | 到達目標        | <p>・年に 37 回（9:15～14:15）活動する。</p>                                                                                                                                                   |
|                                                                                                | 活動概要        | <p>・2024～2026 年度までに年 40 回にする（34 回→37 回→40 回）。</p>                                                                                                                                  |
|                                                                                                | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                    |
|                                                                                                | 達成状況        | <p>・英語の活動を年 37 回実施した。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：90%</p> <p>2026 年度は 60 回の活動を予定し、継続して取り組んでいく。</p>                                                           |
| <p>②多文化に触れ、豊かな感性を育む</p> <p>日本の伝統文化や感性を揺るがすような芸術に触れること、及び留学生との交流等の体験を通して、文化の違いに触れ、豊かな感性を育む。</p> | 到達目標        | <p>・日本や海外の遊び、文化などに触れるための活動を年 1 回以上開催する。</p>                                                                                                                                        |
|                                                                                                | 活動概要        | <p>・日本又は海外の文化的活動を園児が年 1 回以上体験できるよう、計画・交渉を進める。</p>                                                                                                                                  |
|                                                                                                | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                    |
|                                                                                                | 達成状況        | <p>・日本又は海外の文化的活動を園児が年 1 回以上体験した。</p> <p>獅子舞、民謡、和太鼓、中国のラジオ体操、冬季オリンピックなど</p>                                                                                                         |

|  |   |                                                                               |
|--|---|-------------------------------------------------------------------------------|
|  | 況 | 2025 年度事業計画に対する進捗度：100%<br>中期計画に対する進捗度：60%<br>様々な経験ができるように継続して取り組み、内容を充実させるため |
|--|---|-------------------------------------------------------------------------------|

### (3) STEAM 教育の推進

本園では、毎日の生活や遊びの中で人とのかかわりや様々な事象により、子供が自ら気づき、その不思議さや面白さから好奇心や探求心が生まれる実体験を重要視している。その体験の中には、探求心や創造力とともに、考えを組み立てていく思考過程も見られ、それらすべてが、STEAM 教育の土台となると考える。自然科学的な事柄を教科的に指導するのではなく、教員が園児の興味・関心を捉えて、その方向性を鑑みながら援助し、環境を設定していくことが大事である。

より園児主体の自然科学的な遊びが生まれるような環境の整備とともに、園内外での研修等により教員の資質向上を図る。

| 中期計画 行動目標                                                                                                                             | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①探求心や創造力とともに、考えを組み立てていく思考力を育む<br>探求心や創造力とともに、考えを組み立てていく思考力を育むために、2025 年度までに STEAM 教育のカリキュラムを構築する。その後は実行、検証、改善を行い、園児主体の自然科学的な活動を充実させる。 | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度作成した STEAM 教育のカリキュラムを更新する。</li> <li>・園児がデジタル技術に触れ、興味関心をもつ。</li> <li>・HSS2025 の実施にあたり、STEAM 教育に関して開発された独自のコンテンツ内容について助言する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                 |
|                                                                                                                                       | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム作成のために、年間の活動項目について検討、精査する。</li> <li>・園児が知育玩具やタブレット端末を通じて、プログラミングに触れる。</li> <li>・HSSWG で検討を進めている理科実験クラスの内容に対して、助言する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                    |
|                                                                                                                                       | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|                                                                                                                                       | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度作成した STEAM 教育のカリキュラムを更新した。</li> <li>・園児がデジタル技術に触れ、興味関心をもつ機会を設けた。</li> <li>・カリキュラム作成のために、年間の活動項目について検討、精査し、保育に取り入れた。</li> <li>・理学部の教授にも参加してもらい、園児が知育玩具やタブレット端末を通じて、プログラミングに触れる機会を設けた。</li> <li>・HSS2025 の実施にあたり、STEAM 教育・理科実験クラスに関して開発された独自のコンテンツ内容について助言した。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%<br/>中期計画に対する進捗度：60%<br/>カリキュラムの検討・見直しを継続して行うため</p> |

|                                                       |             |                                                                                                                                                |
|-------------------------------------------------------|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ア) 大学理学部主催の「顕微鏡教室」や西生田での自然観察会等の自然科学的な活動を実施する。         | 到達目標        | ・「顕微鏡体験」の実施や西生田での活動をすることにより、保護者にも大学の魅力を伝え、保護者の学園に対する理解を深める。                                                                                    |
|                                                       | 活動概要        | ・引き続き、大学と連携し、自然科学的な活動を実施する。                                                                                                                    |
|                                                       | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                |
|                                                       | 達成状況        | ・大学と連携し「顕微鏡教室」を実施し、西生田での自然科学的な活動（山歩き、焼き芋体験）も実施した。<br>・保護者にも大学の魅力を伝え、保護者の学園に対する理解を深める機会となった。<br><br>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%<br>中期計画に対する進捗度：100% |
| イ) アート活動の実施。                                          | 到達目標        | ・年 3 回以上アート活動を実施する。                                                                                                                            |
|                                                       | 活動概要        | ・学園関係者及び教員によるアート活動を実施する。                                                                                                                       |
|                                                       | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                |
|                                                       | 達成状況        | ・学園関係者及び教員によるアート活動を年 3 回以上実施した。<br>・参加対象を年長児・年中児にし、2 学年に増やした。<br><br>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%<br>中期計画に対する進捗度：100%                               |
| ウ) 園庭の自然環境を豊かにする。<br>園児が主体的にかかわり、自然科学的な遊びが生まれるような園庭や屋 | 到達目標        | ・多様な植物や生物の生育を園児が主体的に行える環境を整備する。                                                                                                                |

|          |            |                                                                                                                                                                                                                                                     |
|----------|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 上等を構想する。 | 活動概要       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年度の研修をいかした自然環境づくりを行なう。</li> <li>・管理部と協働して、屋上の活用について検討する。</li> </ul>                                                                                                                                     |
|          | 2025年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                     |
|          | 達成状況       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年度の研修をいかし、新たに植物を植えるなど、自然環境づくりを行なった。</li> <li>・管理部と協働して、屋上の活用について検討したが、近隣の理解を得ることが難しく、活用には至っていない。</li> </ul> <p>2025年度事業計画に対する進捗度：50%</p> <p>屋上の活用が難しいため</p> <p>中期計画に対する進捗度：50%</p> <p>園庭整備を継続して行うため</p> |

#### (4) キャリア教育の推進

| 中期計画 行動目標                                        | 2025年度事業計画 |                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------------------------------------------------|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①幼稚園教育要領の5つの領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）における資質、能力の基礎を培う。 | 到達目標       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・園児の興味、関心に応じて、経験の幅を広げる。</li> <li>・安心した環境の中で友達とかかわり、自己発揮できるよう支えていく。</li> <li>・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を指標にしつつ、生活や自発的な遊びから総合的な学びにつながるようにしていく。</li> <li>・HSS2025の実施にあたり、キャリア教育に関して開発された独自のコンテンツ内容について助言する。</li> </ul> |
|                                                  | 活動概要       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・園児が人や自然とのかかわり等の経験を通して、生命の尊さや自己肯定感、他者への共感性を育み、自分らしさを表現できる場をつくる。</li> <li>・園児が好きな遊びを十分に楽しみ、伸び伸びと自分の思いを表せるよう支える。</li> <li>・HSSWGで検討を進めているキャリア教育クラスの内容に対して、助言する。</li> </ul>                                       |
|                                                  | 2025年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                       |
|                                                  | 達成状況       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・園児が人や自然とのかかわり等の経験を通して、生命の尊さや自己肯定感、他者への共感性を育み、自分らしさを表現できる場を設けた。</li> <li>・園児が好きな遊びを十分に楽しみ、伸び伸びと自分の思いを表せるよう支えた。</li> <li>・HSSWGで検討を進めているキャリア教育クラスの内容に対して、助言した。</li> </ul>                                       |

|                                             |             |                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                             |             | 2025 年度事業計画に対する進捗度：100%<br>中期計画に対する進捗度：100%                                                                                                                                                                           |
| ②自分らしさを発揮し、将来の夢や希望をもった、心豊かな子どもの成長を促す環境を整える。 | 到達目標        | ・遊びを通じて園児が好きなこと、得意なことを見つけ、充実感を得る。                                                                                                                                                                                     |
|                                             | 活動概要        | ・園児が好きな遊びを十分に楽しめるよう、様々な環境を整える。<br>・交通安全指導での警察官や消防署見学、お店屋さんへの買い物、スポーツ選手の招致など、子ども達があこがれる職業についている人と関わることや、様々な文化や伝統に親しむ機会を設ける。                                                                                            |
|                                             | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                       |
|                                             | 達成状況        | ・園児の遊びの状況を把握し、園児が好きな遊びを十分に楽しめるよう、様々な環境を整えた。<br>・身近な人（用務員・警備員）の職業について話を聞く機会を設けた。年長児は花屋やスーパーに買い物に出かけるなど金融教育も行った。<br><br>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%<br>中期計画に対する進捗度：90%<br>自分らしさを発揮し、将来の夢や希望をもった、心豊かな子どもの成長を促す環境を継続して整えていくため |

## 2. 入学者の安定的な獲得

少子化により、受験市場が縮小する中においても、入学者の安定的獲得と資質確保のため、教育の質の向上を図るとともに、戦略的かつ積極的な広報活動を充実させる。

| 中期計画 行動目標                                                           | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                |
|---------------------------------------------------------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 広報部活動での過去のデータに基づき、HP の充実化、より魅力的な入試関連のイベント等、広報の充実化を図る。一貫教育の魅力と園児の主體的 | 到達目標        | ・女兒の入園定員充足率 100%を維持する。<br>・女兒の志願者数を維持する。<br>・インスタフォロワー数を前年度比 20%アップさせる。<br>・預かり保育について、ナースリーからの移行をスムーズに行い、学園の一貫教育を活かした保育を充実させる。 |

|                                                                             |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>な学びを大事にする本園らしさをより強く発信する。</p> <p>また、社会の要請にあわせて、2025 年度から「預かり保育」を実施する。</p> | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報担当者との連携を密にし、継続的な広報活動を行う。</li> <li>・預かり保育の実施。</li> <li>・効果的な広報活動について分析、精査し、見直す。</li> </ul>                                                                                                                                                   |
|                                                                             | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|                                                                             | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報担当者との連携を密にし、広報活動を充実させ、効果的な広報活動を行った。</li> <li>・預かり保育を実施し、概ね計画通り実施できた。</li> <li>・女兒の入園定員充足率 100%となり、女兒の志願者数維持を達成した。</li> <li>・インスタフォロワー数が前年度比 54%アップ(597→921)となり、目標数値を達成した。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：100%</p> |

## VII 学校法人日本女子大学事業報告

### 1. 管理運営体制の強化

#### (1) コンプライアンスに基づくガバナンスの強化

| 中期計画 行動目標                                    | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|----------------------------------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①ガバナンスコードを遵守し、法人の運営機能を強化する。                  | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2024 年度に改訂が予定されているガバナンスコードの実施項目に対応し、遵守率を 100%にする。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                             |
|                                              | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・理事及び監事の業務を定めることで、本学における業務の執行及び監督の役割を明確にする。</li> <li>・監事の選任の過程を明確にするとともに、監事の監査体制支援について定めることで、監視・監督機能の強化を図る。</li> <li>・会計監査人の選任の過程を明確にする。</li> <li>・理事、監事、評議員及び学長・附属校園長の選任の過程を明確にするとともに、必要な情報の開示を行う。</li> <li>・法人のガバナンス体制の強化のため、内部通報制度の周知や改善の必要性について担当部署が連携し、必要な対応を行う。</li> </ul>                          |
|                                              | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|                                              | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025 年度 3 月に改訂されたガバナンスコードにおける学内の整備状況の確認を行い、2025 年度末までにすべての項目について遵守となるよう対応した。</li> <li>・寄附行為及び諸規程により、理事・監事の役割を明確にするとともに、規程に基づき各機関の選任手続きを実施した。</li> <li>・私立学校法等の定めに基づき、必要な情報を開示し、学内外への周知を行った。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：40%</p> <p>引き続き、毎年度遵守率 100%を維持するための取組を継続して行うため。</p> |
| ②私立学校法等の学園運営に関する法律の趣旨を踏まえつつ、本学園の教育研究活動が円滑に実施 | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2025 年度改正私立学校法の施行に伴い改正等を行った寄附行為や諸規程の運用を行う。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                    |

|                                                                                                                                                      |             |                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>されるよう、ガバナンスのあり方等を再検討し、寄附行為及び関連諸規程を整備する。</p>                                                                                                       | 活動概要        | <p>・改正等を行った寄附行為及び諸規程の運用を通じて、継続して見直し等の必要性を確認する。</p>                                                                                                                                                                                                                        |
|                                                                                                                                                      | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|                                                                                                                                                      | 達成状況        | <p>・改正後の寄附行為等に基づく理事会等の運営を通じ、必要に応じて規程改正を実施した。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：80%</p> <p>整備した規程等の運用・見直しを継続して行うため。</p>                                                                                                                                    |
| <p>③法務業務について、担当者は学外取引先等と取り交わす契約書等の内容について把握し、適切なリーガルチェックを実施する。また、学園活動において個人情報保護法をはじめとする法令が遵守されているか、適宜確認する。そのための専任担当者又は部署について、設置(配置)の要否及び規模の検討を行う。</p> | 到達目標        | <p>・AI リーガルチェックを導入・運用し、有効に活用できる範囲の把握、補完しなければならない法務業務内容を把握し、対応策を講じる。</p> <p>・現行の規程の不備（文言の統一化、法律改正への未対応等）について、コスト面も含めて対応方法等を決定し、実施する。</p>                                                                                                                                   |
|                                                                                                                                                      | 活動概要        | <p>・AI リーガルチェックを運用し、本学が取り扱う契約書及び覚書に適切に対応できているか、また、付与アカウント数の妥当性等について検証し、次年度以降の利用について決定する。</p> <p>・AI リーガルチェックの範囲外となる法務業務について、弁護士への委託等についてコスト面も含めて検証し、2026 年度からの導入について方針を決定する。</p> <p>・規程の文言の統一、法改正への対応確認を行う業務委託先の有無を調査し、コスト面も含めて検討し、導入する。</p>                              |
|                                                                                                                                                      | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|                                                                                                                                                      | 達成状況        | <p>・AI リーガルチェックについては、業務委託をはじめとする各部署より依頼のあった契約書及び覚書のチェックを行っている。引き続き運用を継続し、有効性等について検証を行っていく。</p> <p>・規程のデータベース委託業者について 2026 年度からの変更を決定した。導入製品には規程文案の表記及び法律条文に合致した内容であるかの自動点検を行う機能を有しており、規程文の平準化及び担当部署の業務削減が期待できる。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：40%</p> |

|                                             |             |                                                                                                     |
|---------------------------------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                             |             | 法令順守に対応する体制整備については、単年度目標ではなく中期目標であるため、引き続き整備を行う。                                                    |
| ④学校法人における業務管理において、内部監査を通してリスク管理意識を確立し、持続する。 | 到達目標        | ・リスク管理意識を確立するため、年間で行う公的資金補助金監査・業務監査・会計各監査の他に、業務監査又は特別監査を行う。                                         |
|                                             | 活動概要        | ・通常行う公的資金補助金監査・業務監査・会計各監査1件の他に、業務監査又は特別監査を1件計画し、実施する。                                               |
|                                             | 2025 年度事業報告 |                                                                                                     |
|                                             | 達成状況        | 通常行う公的資金補助金監査・業務監査・会計各監査1件の他に、業務監査又は特別監査を1件計画し、実施した。<br>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%<br>中期計画に対する進捗度：100% |

## (2) 危機管理体制の強化

| 中期計画 行動目標                                                | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                             |
|----------------------------------------------------------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①震災を想定した事業継続計画の策定及び訓練を実施する。以後、訓練と見直し作業を繰り返し実施し、練度を向上させる。 | 到達目標        | ・事業継続計画（BCP）について、学園事業復旧フェーズまでを策定する。<br>・発災時を想定したシミュレーション訓練を年2～3回程度実施し、練度を向上させる。                                                             |
|                                                          | 活動概要        | ・発災時における危機対応チーム（CRT）のシミュレーションを継続的に実施するほか、危機対策本部（CMT）のメンバー参集から意思決定までのプロセスについて訓練を実施する。自衛消防隊の初期活動については、11月に実施する避難訓練実施時に、BCPの訓練も同時に実施し練度を向上させる。 |

|                                         |             |                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------------------------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                         | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|                                         | 達成状況        | <p>BCP について、災害時における学園事業復旧フェーズまでの概要を作成し、対応の詳細について一次対応フェーズ（安全管理）までを策定した。</p> <p>発災時における危機対応チーム（CRT）、危機対策本部（CMT）及び自衛消防隊の初期活動について、11 月に実施する避難訓練実施時に実施した。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：40%</p> <p>BCP の策定について、単年度目標ではなく中期目標であるため、引き続き整備を行う。</p> |
| ②震災以外に学園で発生が想定される危機事案について、対応マニュアルを策定する。 | 到達目標        | <p>・「日本女子大学危機管理要綱」を廃止し、2025 年 4 月より施行する「学校法人日本女子大学リスク管理基本規程」を正しく運用する。</p>                                                                                                                                                                                       |
|                                         | 活動概要        | <p>・リスクごとの担当部署において想定リスクを抽出し、対応マニュアルを策定していることを、リスク管理委員会等を通じて確認する。</p>                                                                                                                                                                                            |
|                                         | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|                                         | 達成状況        | <p>リスクごとの初期対応担当部署案を策定した。対応マニュアルの策定の進捗状況の確認作業については、2026 年度に継続して実施していく。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：70%</p> <p>中期計画に対する進捗度：40%</p> <p>リスク対応マニュアルの策定については、単年度目標ではなく中期目標期間でも実施目標となっているため、引き続き整備を行う。</p>                                                               |

### （３）事務組織・体制の強化

|                                             |             |                                                                |
|---------------------------------------------|-------------|----------------------------------------------------------------|
| 中期計画 行動目標                                   | 2025 年度事業計画 |                                                                |
| ①事務局組織の体制強化を図ることを目的として、現行の職員人事考課制度における評価基準を | 到達目標        | <p>・組織全体のパフォーマンス向上及び職員一人ひとりのエンゲージメントを高めるための新たな人事考課制度を策定する。</p> |

|                                                                                  |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|----------------------------------------------------------------------------------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 見直す。2030 年度までに新評価基準を策定し、新評価基準に則った人事考課を実施する。                                      | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度実施した専任職員への調査結果の分析をもとに、既存の人事考課制度の検証を行う。</li> <li>・検証結果並びに専門家の知見を踏まえて、専任職員の人材育成方針のもと、新たな人事考課制度を策定する。</li> </ul>                                                                                                                                                 |
|                                                                                  | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|                                                                                  | 達成状況        | <p>専任職員に対して実施したエンゲージメント調査等の結果を踏まえ、既存の人事考課制度の課題整理及び見直しの方向性について検証を行った。その結果をもとに新たな人事考課制度の策定に向けて、コンサルティングを担当する委託業者の選定を行い、制度設計に向けたキックオフ会議を実施した。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：30%</p> <p>中期計画に対する進捗度：40%</p> <p>若手職員の人材育成の観点も含め、職員と委託業者との協働プロジェクト体制により 2 年計画で進めることとしたため、新たな人事考課制度の策定には至らなかった。</p>                 |
| ②職員研修の充実<br>事務職員の業務の多様化、高度化、専門化に対応できる人材を育成するため、人的投資を積極化し、海外派遣型研修を含めた多様な研修機会を設ける。 | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・専任職員の人材育成方針を策定し、これを踏まえた組織として発展するための多様な研修機会を実施する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                      |
|                                                                                  | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度実施した課題検証を踏まえて、人材育成方針に沿った一貫性のある多様な研修プログラムを整備する。</li> <li>・昨年度新たに導入した研修（プログラム）の効果検証を行い、期待する成果が得られるように改善を実施する。</li> </ul>                                                                                                                                        |
|                                                                                  | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|                                                                                  | 達成状況        | <p>昨年度新たに導入し、今年度で取り組み 2 年目となった DX コア人材育成プログラムについて、その実施状況及び成果の検証を行った。その結果を踏まえて、2026 年度以降は、新入職員の 5 か年育成計画に恒常的に位置づけ、継続的な人材育成プログラムとして展開することとした。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：40%</p> <p>中期計画に対する進捗度：40%</p> <p>人材育成方針については、①の職員人事考課制度設計と一体的に検討することとしていたが、職員人事考課制度の見直しを 2 年計画で進めることになったため、人材育成方針の策定には至らなかった。</p> |

#### (4) IR データ導入・強化

| 中期計画 行動目標                                       | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| データの集約と分析を行うための体制を整備し、意思決定を支援するための IR データを構築する。 | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学園にある課題を解決するためのテーマ選定を行う</li> <li>・IR データに基づく施策決定数 1 件/1 年</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                        |
|                                                 | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・IR データに基づく施策決定数 1 件/1 年</li> <li>・関連部署と連携しながら、引き続き、意思決定支援としての IR 体制を維持する。</li> <li>・関連部署への情報提供を行う</li> </ul>                                                                                                                                                                                |
|                                                 | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|                                                 | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・意思決定を支援する IR 体制の確立を目的として、システム課と連携し、本学園の IR 基盤である「JWU-IR (データ分析基盤)」を構築した。本基盤を事務局内で共有し、各部署がそれぞれの検討事項や課題に応じて、必要なデータを抽出・分析できる環境を整備した。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：70%</p> <p>中期計画に対する進捗度：70%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ設定及びデータ分析は行ったが、それに基づく施策決定に至らなかったため。</li> </ul> |

#### (5) ブランド・広報機能強化

| 中期計画 行動目標                                | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------------------------------------------|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①SNS による情報発信を強化することにより、本学園への好意的反応を増大させる。 | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS フォロワー数の目標を以下のように設定する (2026 年 3 月末)</li> </ul> <p>X : 7800</p> <p>Instagram : 5100</p> <p>YouTube/TikTok : 2024 年度数値を基準としてプラスの結果を実現する。</p> <p>2024 年 11 月現在の登録者・フォロワー数 : YouTube (2455) /TikTok (633)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・X 及び Instagram のフィード投稿における「エンゲージメント※」(投稿全体) ※いいねや保存数、コメント、シェアなどの総数</li> </ul> <p>X : 平均 50</p> <p>Instagram : 平均 110</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・X 及び Instagram のフィード投稿における「エンゲージメント」(KeyMessage 部分)</li> </ul> |

|                                                                                  |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----------------------------------------------------------------------------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                  |             | <p>X : 平均 55</p> <p>Instagram : 平均 120</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|                                                                                  | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中期計画達成に向けたフォロワーの獲得を継続する。</li> <li>・X 及び Instagram における「エンゲージメント」を強化する。</li> <li>・全投稿における「エンゲージメント」の平均値及び広報課が定める KeyMessage に関する「エンゲージメント」の平均値※を到達目標に定める数値以上とする。</li> </ul> <p>※月単位での平均値から年間平均を算出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの知見に基づいた「投稿文案の精査」「閲覧者が本能的にリアクションするような画像クリエイティブ」を作成する。</li> <li>・本学に関する投稿を監視、有効なアカウントであればいいね等のコミュニケーションを積極的に図る。</li> </ul>                                                      |
|                                                                                  | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|                                                                                  | 達成状況        | <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：</p> <p>フォロワー数の進捗 (X)：目標値 300 増に対して実績 135 増だったため、進捗度は <math>135/300=45\%</math></p> <p>X (旧 Twitter) は X 社の仕様変更により経年的な数値の計測が困難であり、また、若年層の X の利用率が低下していることから、目標のフォロワー数獲得には至らなかった。なお、前述の理由から、X のフォロワー獲得については 2027 年度の中期計画見直し時に変更することを検討している。</p> <p>フォロワー数の進捗 (Instagram)：目標値 400 増に対して実績 1151 増だったため、進捗度は <math>1151/400=288\%</math></p> <p>中期計画に対する進捗度：</p> <p>フォロワー数の進捗 (X)：27.8% (584/2100)</p> <p>フォロワー数の進捗 (Instagram)：91.3% (2557/2800)</p> |
| ②パブリシティにより認知度・関心度を向上させ、Web サイトへの流入を増加させる。Web サイトの来訪者に記事を読んでもらうことにより、本学園への関心を高める。 | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2023/11/1～2024/10/31 の指名検索数クリック数 62 万回、「JWU Times」の直帰率※40.4% (2023 年度掲載分) を基準として、2025 年度 (2024/11/1～2025/10/31) は指名検索数 (クリック数) 65 万回以上、「JWU Times」直帰率の 30% 以下を実現する。</li> </ul> <p>※Web サイトに訪れたユーザーが最初のページだけを閲覧し、他のページに移動せずに Web サイトを離れる割合</p>                                                                                                                                                                                   |
|                                                                                  | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本女子大学」の社会への露出を増加させるため、これまでの活動を継続すると同時に、各種メディアへのメディアアプローチにより良好な関係性を構築する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

|                                       |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|---------------------------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                       | 要           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・Owned メディアとして高い頻度で更新している「日本女子大学の今」や「等身大の学生生活」を発信しているメインコンテンツ「JWU Times」について、品質の高い記事の掲載を維持し、連続して読みたくなる関連記事の配置などの工夫により直帰率を下げ、サイト回遊性を上げる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|                                       | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|                                       | 達成状況        | <p>2025 年度（2024/11/1～2025/10/31）の指名検索数（クリック数）579,500 回、「JWU Times」の直帰率は 9.2%</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：<br/>         クリック数：93.5%<br/>         中期計画に対する進捗度：<br/>         Times 直帰率<br/>         2023 年度：40.38%<br/>         2024 年度：15.67%（2024 年 4 月～2025 年 2 月）<br/>         2025 年度：9.2%（2024 年 11 月～2025 年 10 月）</p> <p>指名検索数は AIO（AI による検索）の影響もあり目標値を達成できなかった。2025 年 4 月から Web コンサルを導入し、効果的な広告運用及び SEO 策を実施している。2025 年度後期からはコンサル導入の効果もあり前年度を超えるクリック数が実現できている。</p> <p>昨今の AIO の影響により、本学だけでなく Web サイトに訪問しないユーザーが増えており、そのような状況の中では健闘していると考えられる。</p> <p>Times 直帰率は 10%以下と多くの訪問者がページに滞在、サイト内を回遊したと思われる。良質な記事をコンスタントに掲載した効果と想定される。</p> |
| ③上記を含む各種ブランディング施策をもって、本学のブランド向上を実現する。 | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・認知度調査を継続する。</li> <li>・Paid メディアによる広告（記事広告／バナー広告）を年間 5 回以上実施する。</li> <li>・ブランディング施策として「日本女子大学の改革」を広く周知する特設サイトを開設する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|                                       | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・進学ブランド力調査と異なるターゲットでの認知を確認するため、本学の調査では保護者世代にあたる 40 歳以上を対象として差別化を行う。</li> <li>・2024 年度に実施した認知度調査を第 1 回目の基準として、2025 年度は同様の調査を実施し、経年変化を把握する。</li> <li>・リクルートの実施している進学ブランド調査（対象者：受験生）との比較により、受験生の認知度、保護者世代の認知度の乖離を解析し、今後の広報施策に生かす。</li> <li>・日経 BP コンサルティング社の実施するブランド調査結果を購入し、結果を</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

|  |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  |             | <p>比較して、今後の認知度調査の実施方針を固める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Paid メディアによる広告の有効活用により、受験生及び保護者層での認知を向上させる。</li> <li>・中期計画の評価指標として定めた「女子興味度」は進学ブランド力調査の項目から除外されたため、収集できない。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|  | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|  | 達成状況        | <p>・2024 年度の調査に続き、2025 年度も同一の設問設定で調査を実施した。本学の認知度を測る指標は多数あるが、その中の機能的イメージ「大学改革が進んでいる」の回答において、2024 年の 3.2%から 2025 年度は 3.5%に数値が向上した。</p> <p>年間を通じて新学部に関するニュースをコンスタントに発信し、また女子大の共学化や募集停止のニュースが相次ぐ中で、改革を推し進めていることを広く社会に発信できた成果と考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予定どおり 2026 年 3 月に大学改革サイトを公開した。</li> <li>・Paid メディアによる広告を年間 15 回実施した。</li> <li>・「進学ブランド力調査」の結果は以下となった。</li> </ul> <p>女子知名度：75.2%</p> <p>女子志願度：1.5%</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：70%</p> <p>認知度調査の数値は向上したが、進学ブランド力調査は、引き続き、数値向上に向けて取り組みを行うため。</p> |

## (6) 学園構成員の健康維持・増進のための取組強化

| 中期計画 行動目標                                                                                 | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                                                          |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学園の構成員である園児、児童、生徒、学生及び教職員が心身ともに健康で生き生きと生活できるよう、カウンセリングセンターと保健管理センターの一体運用やウェルネスセンター（仮称）の設置 | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存のカウンセリングセンターと保健管理センターを統括する組織「ウェルネスセンター（仮称）」の設置について、具体的な運営体制の検討を行い、方針を決定する。</li> </ul>                                          |
|                                                                                           | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・検討 WG 等設置の可否を含め、「ウェルネスセンター（仮称）」設置検討のための体制を構築する。</li> <li>・上記体制の下、「ウェルネスセンター（仮称）」の設置について具体的な運営体制の検討を行い、方針について学内の承認を得る。</li> </ul> |

| を検討し、学園構成員の健康維持・増進のための取組を推進する。 | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|--------------------------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                | 達成状況        | <p>「ウェルネスセンター（仮称）」設置に向けて、関係部署による打合せを実施し、現行体制の課題を整理した上で、既存のカウンセリングセンターと保健管理センターを統合する新たな枠組み（教職員専用の相談部門の設置を含む）について合意がなされた。これを踏まえた教職員相談の体制整備の概要提示及び統合に向けた費用の試算等を引き続き行う。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：50%</p> <p>中期計画に対する進捗度：50%</p> <p>新たな運営体制の方針について関係部署内での合意はされたが、引き続き検討を要する事項があり、学内で方針についての承認を得るには至らなかったため。</p> |

## 2. 財政基盤の強化

### （1）安定的な財政基盤の強化

| 中期計画 行動目標                                                                                       | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①「財政計画 2030」に基づき、2030 年度までの施設修繕及び設備更新計画並びに学部・学科再編及びその広報活動を引き続き重点的に実施する事項として位置づけ、優先的に予算を配分する。また、 | 到達目標        | <p>事業活動収支差額比率 △4.0%以上</p> <p>人件費比率 57.1%未満</p> <p>積立率 70.9%以上</p> <p>総負債比率 15.6%未満</p> <p>前年度比運用資産増加額 △4.6 億円以上</p> |

|                                                                                 |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------------------------------------------------------------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>「財政計画 2030」に基づく人件費削減の進捗状況を確認しつつ、学費改定など収入増加策を提案し、安定した収支構造を確立する。</p>           | <p>活動概要</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中期計画に基づく、大学並びに各附属校園の達成目標を実現するため、適切な予算配分を実現する。</li> <li>・事業活動収入の点検及び適正な予算執行統制により、安定した財政基盤を確立する。</li> <li>・「財政計画 2030」に基づく収支バランスのとれた予算編成を実現する。</li> <li>・賃金物価の上昇、建設費の高騰など昨今の経済情勢を踏まえ、将来の施設設備の維持・更新に必要な資金を確実に留保できるよう主要財務指標の目標値の見直しを検討する。</li> </ul>                  |
| <p>2025 年度事業報告</p>                                                              |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|                                                                                 | <p>達成状況</p> | <p>事業活動収支差額比率 △5.0% 未達成</p> <p>人件費比率 54.5% 達成</p> <p>積立率 75.5% 達成</p> <p>総負債比率 16.4% 未達成</p> <p>前年度比運用資産増加額 2 億 7 百万円 達成</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：60%</p> <p>中期計画に対する進捗度：80%</p> <p>今年度、当初予算では見込んでいなかった賞与引当金の計上により、目標の一部が未達となり、中期計画の進捗については、賞与引当金に加えて附属校園教員の割増賃金（過年度分含む）などの特殊要因を除外すると、目標数値を概ね達成したため。</p> |
| <p>②私立大学等改革総合支援事業、科研費等の外部資金の更なる獲得に向けて、方針を策定、決定する体制を構築し、資金獲得増加に向けた取り組みを強化する。</p> | <p>到達目標</p> | <p>・科研費及び外部資金の獲得の条件整備に向けて、各種方針を策定、決定する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                               |
|                                                                                 | <p>活動概要</p> | <p>・科研費及び外部資金の獲得について、知的財産ポリシー・知的財産管理規程及びデータマネジメントプランを策定する。</p>                                                                                                                                                                                                                                            |

|                                                             |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                             | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|                                                             | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに設置された研究支援委員会において、知的財産ポリシー及び規程について検討したが、策定には至らなかった。また、私立大学等改革総合支援事業タイプ2について、本学の現状分析と課題の洗い出しを行った。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：70%</p> <p>中期計画に対する進捗度：70%</p> <p>データマネジメントプランの策定は完了したが、知的財産ポリシー及び規程の制定については、引き続き、次年度に検討するため。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| ③寄付金募集事業の推進<br>教育事業の継続と充実のため、効率的かつ効果的な募金戦略を策定し、寄付金収入の向上を図る。 | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2026 年に創立 120 周年を迎える附属豊明小学校の記念事業募金を推進する。(2025 年度目標額 4,000 万円)</li> <li>・JWU GO をはじめとする学生の学びや育成に資するプロジェクト推進のための資金を確保する。(2025 年度目標額 1,000 万円)</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|                                                             | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・附属豊明小学校のステークホルダーである卒業生、在校生の保護者、教職員等への働きかけを一層強化する。特に、豊明ふたば会と連携し、卒業生に向けた寄付依頼を推進する。</li> <li>・学生の学びや育成に資する事業等を支援するための募金活動を行う。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|                                                             | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|                                                             | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・寄付金総額は 255,463 千円となり、前年比 78.4% (△70,329 千円) と前年実績を下回った。</li> <li>・減収の主な要因は、その他指定寄付 (△53,082 千円) および遺贈寄付 (△26,000 千円) の減少によるものである。</li> <li>・附属豊明小学校創立 120 周年記念募金は、在校生保護者への継続的な働きかけに加え、同窓会・豊明ふたば会との連携により支援者層の拡大を図った結果、大口の法人寄付もあり目標を達成した。</li> <li>・JWU Global Fund (国際交流基金) は、寄付者情報のデータベース整備によるターゲットの最適化と、教育振興寄付金と連動した寄付経路のマルチチャネル化により、目標を達成した。</li> <li>・学生の学びと育成を支援するため、新たに教育振興寄付金を創設し、学部在学生の保護者へ協力を依頼した。</li> <li>・また、2024 年度の寄付者 (889 名) へ寄付報告書を送付した結果、教育振興寄付金への新たな寄付につながった。</li> </ul> <p>寄付金実績：今年度受入額：255,463 千円</p> <p>前年比 78.4% △70,329 千円</p> |

|  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>附属豊明小学校創立 120 周年記念募金</p> <p>47,424 千円（目標額：40,000 千円）</p> <p>JWU Global Fund（国際交流基金）</p> <p>17,817 千円（目標額：10,000 千円）</p> <p>入学時寄付 61,500 千円（2024 年度実績：80,760 千円）</p> <p>教育振興寄付金（2025 年度新設）</p> <p>26,593 千円（目標額：20,000 千円）</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：75%</p> <p>中期計画に対する進捗度未達要因：その他指定寄付、遺贈寄付の減少による。</p> |
|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## （２）キャンパスの再開発と利活用

| 中期計画 行動目標                                                                                                                                            | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>①目白地区の利活用に向けた検討と実行</p> <p>泉山地区の今後の新学部に必要な施設の対応や老朽化した建物の次期改築計画について体育館地区や寮地区をふまえた建築計画を策定し、2027 年度までに実行する。また、小学校地区についても同様に次期改築計画をふまえた計画を策定し実行する。</p> | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2024 年度に行った費用の検証結果から、新棟 2 棟の内容や体制を変更した基本設計を完了させ、費用の検証をする。</li> <li>・梅花寮の解体工事を完了させ、豊坂別館の解体工事を開始する。</li> <li>・寮地区の具体的な開発計画案を作成し、理事会に報告する。</li> </ul> |
|                                                                                                                                                      | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・設計・施工会社および仕様の見直しをした上で決定を行う。</li> <li>・開始した 1 棟は安全に解体工事を完了させ、近隣説明会を開催し、それぞれの既存建物の解体及び新棟建築計画を説明する。</li> <li>・学寮のあり方を踏まえた寮地区全体の開発構想を作成する。</li> </ul>  |

| 2025 年度事業報告         |      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                     | 達成状況 | <p>・ 建築費の高騰により内容の見直しが余儀なくされた新棟の建築計画は、2025 年 2 月の理事会にて計画変更が承認され、2025 年度に改めて予算内に収まる計画の検証を行った。</p> <p>結果、学童施設棟は 2027 年度内に竣工、新棟への移転が可能なスケジュール策定に至ることができた。</p> <p>学生実習棟については、建物仕様の見直しも含め、設計施工会社の再検討を行ったところ、予算内に収まる計画の提示を受けるに至った。</p> <p>・ 梅花寮の解体工事は 7 月に工事完了、8 月に現状整理が行われ、引き渡しを受けた。</p> <p>・ 寮地区については、前提条件となる様々な制約事項の整理が完了したことから、2026 年度には具体的な案について検討に入ることとなった。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：60%</p> <p>中期計画に対する進捗度：60%</p> <p>基本設計まではできなかったが費用の検証を行ったことと解体工事は完了したこと、寮地区の検討方法を提示したため</p> |
|                     | 到達目標 | <p>・ 水田記念公園の管理、運営体制の確認、及び今後の再生計画案を決定する。</p> <p>・ 西生田土地の売却可能な区域について、条件等の詳細を検討し、売却の可否の含めた方針を決定する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| ②西生田地区の利活用に向けた検討と実行 | 活動概要 | <p>大学地区の利活用における法的制約を整理した上で、実物教育の場としての水田記念公園を中心とした森や田畑等の維持管理計画を策定し、実行する。</p> <p>・ 水田記念公園を中心とした植物のアセスメント結果に基づき、安全対策とともに里山としての再生計画を立案する。</p> <p>・ 売却を検討する土地は土砂災害警戒区域に指定されている斜面地と隣接するため、売却に際し求められる土砂量等のデータ取得等を行う。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                |

|                                                                                 |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---------------------------------------------------------------------------------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                 | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|                                                                                 | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2024 年から緑地管理委員会が設置され、その下に西生田キャンパス森保全小委員会が設けられた。</li> <li>・西生田キャンパス森保全小委員会では、水田記念公園を中心に展開されている児童・生徒、大学生による研究・教育活動、危険樹木伐採実績等について共有した。さらには環境コンサルタントを外部機関に委託し、西生田の森の今後の再生計画等について検討を進めている。</li> <li>・売却可能な区域は土砂災害警戒区域と隣接していることから、当面、売却は行わずに現状維持することとなった。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：100%</p> |
| ③軽井沢三泉寮地区の利活用に向けた検討<br><br>老朽化した本館を建替える場合の法的制約を整理した上で、利用方法等を踏まえた今後のあり方について提案する。 | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・軽井沢三泉寮の活用方法、及び課題を整理し、今後の在り方を理事会に報告する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|                                                                                 | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の建物設備の課題等もまとめ、最終的にどうあるべきかを提案する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|                                                                                 | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|                                                                                 | 達成状況        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・理事長の下に設置されているキャンパス再開発検討委員会にて、軽井沢の三泉寮の大規模改修計画の方針が共有され、業者による概算費用の取得に入ったことが説明された。</li> <li>・軽井沢町の建築制限の方針についても情報共有がされた。</li> </ul> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：75%</p> <p>中期計画に対する進捗度：75%</p> <p>改修工事の費用による理事会への提案までいかなかったため。</p>                                                                                               |

### (3) 財政計画に基づく質の高い教育体制の確立

| 中期計画 行動目標                                                    | 2025 年度事業計画 |                                                                                                                                                                                                                                     |
|--------------------------------------------------------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①本学園の一貫教育体制のあり方、特に附属中学校と高等学校の連携、教育体制のあり方を検討する。               | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中高大連携方針策定委員会にて、附属中学校と附属高等学校の連携、教育体制のあり方を企画・立案し、2025 年度末までに中高一貫教育体制の実現性について理事会に報告する。</li> </ul>                                                                                              |
|                                                              | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・附属中学校と附属高等学校の連携体制を検討するため、中高大連携方針策定委員会の下に検討部隊（ワーキンググループ）を設置し、具体的な検討を開始する。</li> </ul>                                                                                                         |
|                                                              | 2025 年度事業報告 |                                                                                                                                                                                                                                     |
|                                                              | 達成状況        | <p>中高大連携方針策定委員会から理事会へ 2027 年度からの中高一体化の方向性を答申し、承認された。委員会の下にワーキンググループを設置し、具体的な検討を進めた。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：40%</p> <p>中高一体化の方向性の意思決定は完了したものの、募集実施や新カリキュラムへの移行準備など、実効性を担保する実務フェーズを 2026 年度以降に残しているため。</p> |
| ②幼稚園から大学院までの幼児、児童、生徒及び学生の適切な収容定員と適切な教員数を見直し、限りある経営資源を有効活用する。 | 到達目標        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園から大学院における収容定員について、各検討セッションにおける結果を学園全体の教職員の配置等、経営方針等の策定に活用する。</li> <li>・附属中学校と附属高等学校の適正な収容定員については、一貫教育体制を検討するプロセスの中で適正な収容定員について検討し、高校募集の在り方を含めた案を 2025 年度末までに理事会に報告する。</li> </ul>         |
|                                                              | 活動概要        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院については研究科委員会、大学院入学試験協議会及び大学執行部会議において検討を行う。</li> <li>・大学については、学部・学科再編の全体構想とあわせて検討を行う。</li> <li>・附属中学校と附属高等学校については、中高大連携方針策定委員会で定員の適正化を検討する。</li> </ul>                                     |

| 2025 年度事業報告      |                                                                                                                                                                                                                  |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 達<br>成<br>状<br>況 | <p>【入試課、教学企画課】</p> <p>・大学基準協会の第4期認証評価並びに私立大学経常費補助金への対応として、大学院の入学定員・収容定員の変更について理事会で審議・決定し、2027年度からの変更に向けて文部科学省へ所定の手続を実施した。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：100%</p>                             |
|                  | <p>【附属校園部】</p> <p>附属中学校と附属高等学校については、2027 年度中高一体化において、当面現状の定員を維持し、高校募集を継続することを理事会に報告し承認された。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：100%</p> <p>中期計画に対する進捗度：30%</p> <p>文科省の指針や少子化傾向を踏まえ、幼小中高における適切な収容定員を引き続き検討する。</p>           |
|                  | <p>【経理課】</p> <p>附属校園の収容定員の見直しについて、財務状況を踏まえて判断する必要があるため、現行の収容定員を減員する場合の試算を行った。</p> <p>2025 年度事業計画に対する進捗度：70%</p> <p>中期計画に対する進捗度：70%</p> <p>収容定員の見直しにあたっては、収支が悪化しないようあらかじめ収入増加や支出削減による具体的な財源確保策を立案しておく必要があるため。</p> |
|                  |                                                                                                                                                                                                                  |

### 3. 財務の概要

#### (1) 決算の概要及び経営状況の分析

2025 年度は、2020 年度に策定した新たな中・長期財政計画である「財政計画 2030」の 5 年目に当たる。引き続き、財政計画目標の実現に向け、事業計画に基づく適切な予算執行を進めた。

資金収入においては、繰越支払資金を除き、前年度（2024 年度）に比して 18 億 9 千 8 百万円の増加となった。高等教育の修学支援新制度拡充による補助金収入の増や満期を迎えた有価証券（債券）が多かったことが主な要因である。

資金支出においては、繰越支払資金を除き、前年度に比して 12 億 8 千 2 百万円の増加となった。教育研究経費支出において高等教育の修学支援新制度拡充に伴う奨学費支出が増加したほか、管理経費として過年度分の人件費の支出があったこと、梅花寮の解体に係る費用を計上したことが主な要因である。

事業活動収支においては、学校法人会計基準の改正に伴い賞与引当金に係る支出を計上したことなどにより、当年度収支差額が 9 億 2 千 3 百万円の支出超過（赤字）となった。

2025 年度決算の概要は、次のとおりである。

#### ①資金収支計算書について

##### <収入の部>

##### 学生生徒等納付金収入

学生生徒等納付金収入は、2025 年度入学者から全ての学校種で学費改定を実施したことなどにより、前年度に比し 2 千 9 百万円増の 102 億 8 千 1 百万円となった。なお、学生生徒等納付金のうち入学金収入は、大学の入学手続期間を変更したことに伴い入学手続者が減となり、前年度に比し 8 千万円減となった。

##### 手数料収入

手数料収入は、志願者数の増によって入学検定料収入が増加し、前年度に比し 1 千 2 百万円増の 3 億 2 千 6 百万円となった。

##### 寄付金収入

寄付金収入は、遺贈・相続財産の寄付金、大学の新入生を対象とした寄付金及び大学の PTA 組織である泉会からの寄付金の減により、前年度に比し 6 千 9 百万円減の 2 億 5 千 7 百万円となった。

##### 補助金収入

補助金収入は、高等教育の修学支援新制度の拡充などにより、前年度に比し 5 億 5 千 5 百万円増の 23 億 3 千 8 百万円となった。

##### 資産売却収入

資産売却収入は、債券の償還が増えたことにより、前年度に比し 12 億 7 千万円増の

16 億 7 千万円となった。

#### 付随事業・収益事業収入

付随事業・収益事業収入は、受託事業収入の増などにより、前年度に比し 7 百万円増の 3 億 2 千 9 百万円となった。

#### 受取利息・配当金収入

受取利息・配当金収入は、債券の利金が増えたことにより、前年度に比し 2 千 7 百万円増の 1 億 9 千 2 百万円となった。

#### 雑収入

雑収入は退職金団体交付金収入が減少し、前年度に比し 1 億 4 千 4 百万円減の 3 億 4 千万円となった。

#### 前受金収入

前受金収入は、大学の 2026 年度入学者が増加したことに伴い、前年度に比し 5 千 4 百万円増の 17 億 4 千 2 百万円となった。

#### <支出の部>

#### 人件費支出

人件費支出は、一般人件費が 2 億 6 千 7 百万円増加した一方、退職金支出が 1 億 7 千 5 百万円の減となり、人件費総額では前年度に比し 9 千 2 百万円増の 76 億 9 千 1 百万円となった。

#### 教育研究経費支出

教育研究経費支出は、前年度に比し 8 億 8 百万円増の 38 億 8 千 2 百万円となった。

主な要因は、高等教育の修学支援新制度拡充に伴い奨学費支出が増加したほか、修繕費、委託費が増加したためである。

#### 管理経費支出

管理経費支出は、前年度に比し 6 億 6 千 1 百万円増の 14 億 6 千 2 百万円となった。

主な要因は、過年度分の人件費を過年度修正支出として計上したほか、梅花寮の解体及びアスベスト処理費用の支出があったためである。

#### 施設関係支出

施設関係支出は、資本的支出に該当する施設改修工事が少なかったことから、前年度に比し 7 千 7 百万円減の 2 億 7 千 4 百万円となった。

#### 設備関係支出

設備関係支出は、研究用大型設備の購入や事務用 PC のリプレイスに伴う機器備品の購入などにより、前年度に比し 1 億 9 千 4 百万円増の 4 億 9 千 7 百万円となった。

#### 資産運用支出

資産運用支出は、債券購入に伴う有価証券購入支出の減により、前年度に比し 4 億 9 千 2 百万円減の 11 億 7 千万円となった。

## ②事業活動収支計算書について

### 経常収支差額

教育活動収入が 4 億 4 千 1 百万円増加した一方、教育活動支出が 11 億 8 百万円増加し、経常収支差額は、前年度に比し 6 億 3 千 9 百万円減の 1 億 7 千 5 百万円となった。

### 特別収支差額

特別収支差額は、その他の特別支出として過年度修正額及び賞与引当金特別繰入額を計上したことにより、前年度に比し 9 億 3 千 6 百万円減の△8 億 8 千 5 百万円となった。

### 基本金組入前当年度収支差額

基本金組入前当年度収支差額は、7 億 1 千万円の支出超過（事業活動収支差額比率△5.0%）となった。

### 基本金組入額

基本金組入額は、2 億 1 千 3 百万円の組入れとなった。

### 当年度収支差額・翌年度繰越収支差額

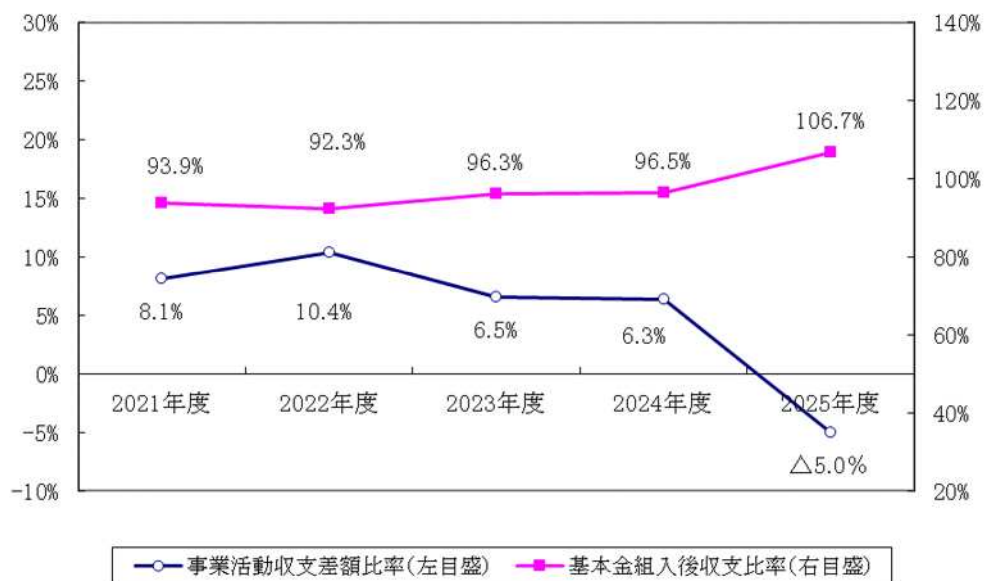
基本金組入後の当年度収支差額は 9 億 2 千 3 百万円の支出超過（基本金組入後収支比率 106.7%）となり、翌年度繰越収支差額は 113 億 8 千 5 百万円の支出超過となった。

### 事業活動収支関係比率

事業活動収支の各項目における財務比率は、次のとおりである。

| 比 率        | 算 式                                          | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 | 同系統法人<br>平均値<br>2024年度 |
|------------|----------------------------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|------------------------|
| 経常収支差額比率   | $\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$          | 8.4%   | 8.6%   | 6.3%   | 6.0%   | 1.2%   | 3.3%                   |
| 教育活動収支差額比率 | $\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入}}$      | 8.1%   | 8.0%   | 5.3%   | 4.9%   | △0.1%  | 1.1%                   |
| 事業活動収支差額比率 | $\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$ | 8.1%   | 10.4%  | 6.5%   | 6.3%   | △5.0%  | 3.9%                   |
| 基本金組入後収支比率 | $\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入－基本金組入額}}$ | 93.9%  | 92.3%  | 96.3%  | 96.5%  | 106.7% | 106.6%                 |
| 学生生徒等納付金比率 | $\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$        | 77.1%  | 77.3%  | 76.3%  | 75.8%  | 73.5%  | 72.9%                  |
| 寄付金比率      | $\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$           | 2.1%   | 3.9%   | 2.4%   | 2.5%   | 1.9%   | 2.2%                   |
| 補助金比率      | $\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$           | 13.8%  | 13.2%  | 13.6%  | 13.0%  | 16.6%  | 14.6%                  |
| 人件費比率      | $\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$             | 55.6%  | 55.2%  | 56.2%  | 55.6%  | 54.5%  | 50.7%                  |
| 教育研究経費比率   | $\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$          | 30.2%  | 30.0%  | 30.9%  | 31.5%  | 36.2%  | 37.7%                  |

事業活動収支関係比率



### ③貸借対照表について

#### <資産の部>

土地、建物、図書などの有形固定資産は、5億9千1百万円の減となった。その他の固定資産は、2億8千4百万円減の58億9千4百万円となった。

資産の部合計では、3億5千2百万円減の536億4百万円となった。

#### <負債の部>

負債の部では、固定負債は、長期借入金が増加したことなどから8千8百万円減の52億3百万円となった。流動負債は、賞与引当金を計上したことなどにより4億4千6百万円増の35億9千万円となり、負債の部合計では3億5千8百万円増の87億9千3百万円となった。

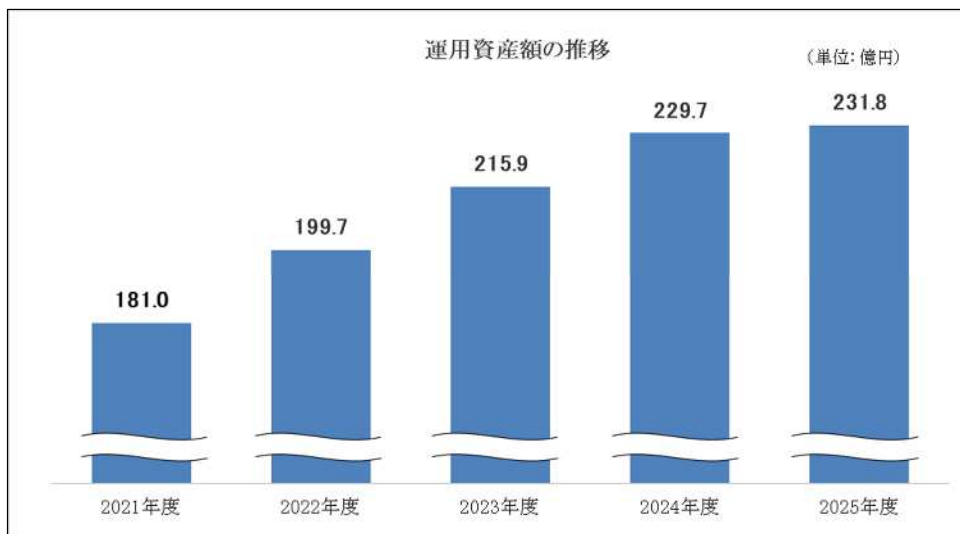
#### <純資産の部>

純資産の部では、施設設備に係る基本金の組入れを行ったことにより第1号基本金が2億1千3百万円増加し、基本金合計は561億9千6百万円となった。繰越収支差額は、支出超過が9億2千3百万円増加して△113億8千5百万円、純資産の部合計では、7億1千万円減の448億1千2百万円となった。

### 貸借対照表関係比率

貸借対照表における財務比率は、次のとおりである。

| 比 率      | 算 式                                        | 2021年度 | 2022年度 | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 | 同系統法人<br>平均値<br>2024年度 |
|----------|--------------------------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|------------------------|
| 固定資産構成比率 | $\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$           | 83.9%  | 87.0%  | 86.4%  | 85.8%  | 84.6%  | 86.4%                  |
| 流動資産構成比率 | $\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$           | 16.1%  | 13.0%  | 13.6%  | 14.2%  | 15.4%  | 13.6%                  |
| 固定負債構成比率 | $\frac{\text{固定負債}}{\text{負債}+\text{純資産}}$ | 11.4%  | 10.8%  | 10.3%  | 9.8%   | 9.7%   | 6.8%                   |
| 流動負債構成比率 | $\frac{\text{流動負債}}{\text{負債}+\text{純資産}}$ | 6.1%   | 5.6%   | 6.0%   | 5.8%   | 6.7%   | 5.0%                   |
| 流動比率     | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$          | 262.9% | 231.1% | 227.2% | 244.5% | 230.3% | 274.4%                 |
| 総負債比率    | $\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$            | 17.5%  | 16.4%  | 16.2%  | 15.6%  | 16.4%  | 11.8%                  |
| 負債比率     | $\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$            | 21.3%  | 19.7%  | 19.4%  | 18.5%  | 19.6%  | 13.3%                  |
| 基本金比率    | $\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$        | 98.0%  | 98.3%  | 98.6%  | 98.7%  | 98.8%  | 97.7%                  |
| 積立率      | $\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$          | 67.0%  | 71.3%  | 74.6%  | 76.7%  | 75.5%  | 73.8%                  |



## (2) 経営上の成果と課題

人件費の過年度遡及分の発生や賞与引当金の計上などにより支出が増加し、事業活動収支差額（基本金組入前当年度収支差額）及び基本金組入後の当年度収支差額は、いずれも支出超過となった。現金預金、特定資産及び有価証券を合計した運用資産の残高は、前年度に比し2億7百万円増の231億7千7百万円となった。

事業計画において設定した財務比率の目標値は、「②人件費比率」「③積立率」「⑤前年度比運用資産増加額」の3項目で目標を達成したものの、「①事業活動収支差額比率」「④総負債比率」の2項目については目標未達成となった。

今後の課題は、学生生徒等納付金をはじめとした安定的な収入を確保するとともに計

画的な予算執行を行い、将来の建物改築等に備えた資金の留保が可能となる収支構造を実現することである。

＜2025 年度決算財務比率目標＞

|              |           |     |               |
|--------------|-----------|-----|---------------|
| ①事業活動収支差額比率  | △5.0%     | 未達成 | (目標△4.0%以上)   |
| ②人件費比率       | 54.5%     | 達成  | (目標 57.1%未満)  |
| ③積立率         | 75.5%     | 達成  | (目標 70.9%以上)  |
| ④総負債比率       | 16.4%     | 未達成 | (目標 15.6%未満)  |
| ⑤前年度比運用資産増加額 | 2 億 7 百万円 | 達成  | (目標△4.6 億円以上) |

3. 今後の方針・対応方策

2023 年度に見直しを行った「財政計画 2030」に基づき、中長期的には、当年度収支差額（基本金組入額を含む収支）の黒字を維持することにより、繰越収支差額（累積赤字）の縮小を目指すことを基本方針としている。

引き続き、人件費の計画的削減や学費改定による増収等の施策を実施し、学園全体の施設修繕及び設備更新を適切に進めていく。

【参考資料】

■事業活動収支関係比率

| 比率名        | 説 明                                                                                              | 同系統法人<br>平均値<br>2024 年度 |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| 経常収支差額比率   | 経営の健全性を表す指標であり、この比率が高いほど、施設設備の取替更新や新規投資の資金を確保できるため、中長期的な施設設備計画を検討するうえで一つの指標となる。                  | 3. 3%                   |
| 教育活動収支差額比率 | 学校本来の教育活動による収支差額を表しており、本業である教育活動収入の範囲内で、どの程度余裕を持って運営できているかを把握することができる。                           | 1. 1%                   |
| 事業活動収支差額比率 | 従来の帰属収支差額比率で単年度における事業活動全体の収支差額比率を表している。この段階では、この収支差額で当年度の基本金組入額を確保する必要がある。                       | 3. 9%                   |
| 基本金組入後収支比率 | 従来の消費収支比率で当年度の基本金組入額が事業活動収支差額のプラスの範囲内で収まっていれば基本金組入後収支差額は収入超過となり、この比率は100%未満となる。                  | 106. 6%                 |
| 学生生徒等納付金比率 | 学校法人の経常収入のなかで最大の比重を占めており、安定的な比率で推移していることが経営的には望ましい。一方、この比率が高いほど、学生生徒等納付金への依存度が高く、収入財源の多様化が必要となる。 | 72. 9%                  |
| 寄付金比率      | 分子の寄付金には特別収支の施設設備寄付金及び現物寄付も含む。そのため、周年事業の寄付金募集がある場合、年度により増減幅が大きくなることがある。                          | 2. 2%                   |
| 補助金比率      | 分子の補助金には教育活動収支における経常費等補助金だけでなく、年度固有の臨時的収入に区分される施設設備補助金も含まれる。                                     | 14. 6%                  |
| 人件費比率      | 人件費は学校法人の経常支出の大半を占め、また固定費的なものであるため、人件費比率を一定の比率以下に抑えることが必要である。                                    | 50. 7%                  |
| 教育研究経費比率   | 教育研究経費は学校法人の本業である教育研究活動に関する支出であり、経常費等補助金の配分にも影響しているので、この比率が高くなることが望ましい。                          | 37. 7%                  |

■貸借対照表関係比率

| 比率名      | 説 明                                                        | 同系統法人<br>平均値<br>2024 年度 |
|----------|------------------------------------------------------------|-------------------------|
| 固定資産構成比率 | 固定資産の総資産に占める構成割合。教育研究事業には多額の設備投資が必要になるため高くなる傾向にある。         | 86. 4%                  |
| 流動資産構成比率 | 流動資産の総資産に占める構成割合。現金化できる資産が多く資金流動性に富んでいる場合はこの比率が高い。         | 13. 6%                  |
| 固定負債構成比率 | 固定負債の総資金に占める構成割合。負債と純資産に占める長期的債務の割合となる。                    | 6. 8%                   |
| 流動負債構成比率 | 流動負債の負債と純資産に占める構成割合。短期的債務の比重を示す。                           | 5. 0%                   |
| 流動比率     | 流動負債に対する流動資産の割合。資金の流動性を示す。                                 | 274. 4%                 |
| 総負債比率    | 固定負債と流動負債を合計した負債総額の総資産に対する割合。                              | 11. 8%                  |
| 負債比率     | 他人資金と純資産の関係比率。                                             | 13. 3%                  |
| 基本金比率    | 基本金組入対象資産額である要組入額に対する組入済基本金の割合。                            | 97. 7%                  |
| 積立率      | 運用資産の要積立額に対する割合。学校法人の経営を持続的かつ安定的に継続するために必要となる運用資産の保有状況を表す。 | 73. 8%                  |

※出典：日本私立学校振興・共済事業団（2024 年度決算統計）

同系統法人：理工他複数学部を有する大学法人

# 資金収支計算書（総括）

2025年4月 1日から

2026年3月31日まで

（単位：円）

| 科 目              | 2025年度決算額             | 2024年度決算額             | 増 減                  |
|------------------|-----------------------|-----------------------|----------------------|
| <b>[収 入 の 部]</b> |                       |                       |                      |
| 学生生徒等納付金収入       | 10,280,839,995        | 10,251,598,670        | 29,241,325           |
| 手数料収入            | 325,613,130           | 313,775,350           | 11,837,780           |
| 寄付金収入            | 256,982,010           | 326,317,035           | △ 69,335,025         |
| 補助金収入            | 2,338,492,374         | 1,783,075,178         | 555,417,196          |
| 資産売却収入           | 1,670,000,000         | 400,000,000           | 1,270,000,000        |
| 付随事業・収益事業収入      | 329,175,402           | 322,133,235           | 7,042,167            |
| 受取利息・配当金収入       | 191,711,353           | 164,561,645           | 27,149,708           |
| 雑収入              | 339,599,017           | 483,110,855           | △ 143,511,838        |
| 借入金等収入           | 0                     | 0                     | 0                    |
| 前受金収入            | 1,742,268,360         | 1,688,517,545         | 53,750,815           |
| その他の収入           | 616,204,048           | 483,105,640           | 133,098,408          |
| 資金収入調整勘定         | △ 2,156,676,041       | △ 2,179,686,901       | 23,010,860           |
| <b>当年度収入合計</b>   | <b>15,934,209,648</b> | <b>14,036,508,252</b> | <b>1,897,701,396</b> |
| <b>前年度繰越支払資金</b> | <b>6,878,076,280</b>  | <b>6,721,036,610</b>  | <b>157,039,670</b>   |
| <b>収入の部合計</b>    | <b>22,812,285,928</b> | <b>20,757,544,862</b> | <b>2,054,741,066</b> |
| <b>[支 出 の 部]</b> |                       |                       |                      |
| 人件費支出            | 7,691,111,788         | 7,599,293,062         | 91,818,726           |
| （一般人件費支出）        | (7,254,729,488)       | (6,987,893,662)       | ( 266,835,826)       |
| （退職金支出）          | (436,382,300)         | (611,399,400)         | (△ 175,017,100)      |
| 教育研究経費支出         | 3,881,928,054         | 3,074,208,297         | 807,719,757          |
| 管理経費支出           | 1,462,057,523         | 800,959,008           | 661,098,515          |
| 借入金等利息支出         | 3,749,625             | 4,027,375             | △ 277,750            |
| 借入金等返済支出         | 55,550,000            | 55,550,000            | 0                    |
| 施設関係支出           | 273,685,495           | 351,090,363           | △ 77,404,868         |
| 設備関係支出           | 497,227,410           | 302,862,761           | 194,364,649          |
| 資産運用支出           | 1,170,100,262         | 1,662,289,400         | △ 492,189,138        |
| その他の支出           | 912,563,120           | 897,459,167           | 15,103,953           |
| 〔予備費〕            |                       |                       | 0                    |
| 資金支出調整勘定         | △ 786,557,476         | △ 868,270,851         | 81,713,375           |
| <b>当年度支出合計</b>   | <b>15,161,415,801</b> | <b>13,879,468,582</b> | <b>1,281,947,219</b> |
| <b>翌年度繰越支払資金</b> | <b>7,650,870,127</b>  | <b>6,878,076,280</b>  | <b>772,793,847</b>   |
| <b>支出の部合計</b>    | <b>22,812,285,928</b> | <b>20,757,544,862</b> | <b>2,054,741,066</b> |

# 事業活動収支計算書(総括)

2025年4月1日から  
2026年3月31日まで

(単位 円)

| 教育活動収支 | 事業活動収入の部 | 科 目           | 2025年度決算額      | 2024年度決算額      | 増 減           |
|--------|----------|---------------|----------------|----------------|---------------|
|        |          | 学生生徒等納付金      | 10,280,839,995 | 10,251,598,670 | 29,241,325    |
|        |          | 手 数 料         | 325,613,130    | 313,775,350    | 11,837,780    |
|        |          | 寄 付 金         | 198,766,136    | 228,617,766    | △ 29,851,630  |
|        |          | 経 常 費 等 補 助 金 | 2,330,886,374  | 1,765,001,178  | 565,885,196   |
|        |          | 付随事業収入        | 329,175,402    | 322,133,235    | 7,042,167     |
|        |          | 雑 収 入         | 338,223,017    | 481,362,355    | △ 143,139,338 |
|        |          | 教 育 活 動 収 入 計 | 13,803,504,054 | 13,362,488,554 | 441,015,500   |
|        | 事業活動支出の部 | 科 目           | 2025年度決算額      | 2024年度決算額      | 増 減           |
|        |          | 人 件 費         | 7,629,457,962  | 7,522,050,567  | 107,407,395   |
|        |          | 教育研究経費        | 5,068,600,446  | 4,267,188,628  | 801,411,818   |
|        |          | 管 理 経 費       | 1,118,548,324  | 919,441,569    | 199,106,755   |
|        |          | 徴収不能額等        | 0              | 0              | 0             |
|        |          | 教 育 活 動 支 出 計 | 13,816,606,732 | 12,708,680,764 | 1,107,925,968 |
|        | 教育活動収支差額 |               | △ 13,102,678   | 653,807,790    | △ 666,910,468 |

| 教育活動外収支 | 収入の活動の部     | 科 目         | 2025年度決算額     | 2024年度決算額     | 増 減             |
|---------|-------------|-------------|---------------|---------------|-----------------|
|         |             | 受取利息・配当金    | 191,711,353   | 164,561,645   | 27,149,708      |
|         |             | その他の教育活動外収入 | 0             | 0             | 0               |
|         |             | 教育活動外収入計    | 191, 711, 353 | 164, 561, 645 | 27, 149, 708    |
|         | 支出の活動の部     | 科 目         | 2025年度決算額     | 2024年度決算額     | 増 減             |
|         |             | 借入金等利息      | 3,749,625     | 4,027,375     | △ 277,750       |
|         |             | その他の教育活動外支出 | 0             | 0             | 0               |
|         |             | 教育活動外支出計    | 3, 749, 625   | 4, 027, 375   | △ 277, 750      |
|         |             | 教育活動外収支差額   | 187, 961, 728 | 160, 534, 270 | 27, 427, 458    |
|         | 経 常 収 支 差 額 |             | 174. 859. 050 | 814. 342. 060 | △ 639. 483. 010 |

| 特別収支          | 収入の活動       | 科 目              | 2025年度決算額        | 2024年度決算額       | 増 減           |
|---------------|-------------|------------------|------------------|-----------------|---------------|
|               |             | 資 産 売 却 差 額      | 7,231,000        | 387,000         | 6,844,000     |
|               |             | その他の特別収入         | 83,679,764       | 137,337,262     | △ 53,657,498  |
|               |             | 特 別 収 入 計        | 90,910,764       | 137,724,262     | △ 46,813,498  |
|               | 支出の活動       | 科 目              | 2025年度決算額        | 2024年度決算額       | 増 減           |
|               |             | 資 産 処 分 差 額      | 103,963,508      | 87,370,309      | 16,593,199    |
|               |             | その他の特別支出         | 872,253,499      | 0               | 872,253,499   |
|               |             | 特 別 支 出 計        | 976,217,007      | 87,370,309      | 888,846,698   |
|               | 特 別 収 支 差 額 |                  | △ 885,306,243    | 50,353,953      | △ 935,660,196 |
|               | 〔 予 備 費 〕   |                  |                  |                 | 0             |
| 基本金組入前当年度収支差額 |             | △ 710,447,193    | 864,696,013      | △ 1,575,143,206 |               |
| 基本金組入額合計      |             | △ 212,969,010    | △ 403,356,405    | 190,387,395     |               |
| 当年度収支差額       |             | △ 923,416,203    | 461,339,608      | △ 1,384,755,811 |               |
| 前年度繰越収支差額     |             | △ 10,461,276,177 | △ 10,922,615,785 | 461,339,608     |               |
| 翌年度繰越収支差額     |             | △ 11,384,692,380 | △ 10,461,276,177 | △ 923,416,203   |               |
| (参考)          |             |                  |                  |                 |               |
| 事業活動収入計       |             | 14,086,126,171   | 13,664,774,461   | 421,351,710     |               |
| 事業活動支出計       |             | 14,796,573,364   | 12,800,078,448   | 1,996,494,916   |               |

# 貸 借 対 照 表

2026年3月31日

(単位：円)

| 資 産 の 部           |                |                |               |
|-------------------|----------------|----------------|---------------|
| 科 目               | 本 年 度 末        | 前 年 度 末        | 増 減           |
| 固 定 資 産           | 45,337,139,378 | 46,268,277,135 | △ 931,137,757 |
| 有 形 固 定 資 産       | 29,749,734,201 | 30,341,214,664 | △ 591,480,463 |
| 土 地               | 4,024,201,799  | 4,024,201,799  | 0             |
| 建 物               | 19,110,907,763 | 19,771,248,437 | △ 660,340,674 |
| 構 築 物             | 387,550,844    | 402,428,196    | △ 14,877,352  |
| 教 育 研 究 用 機 器 備 品 | 1,460,508,120  | 1,396,331,707  | 64,176,413    |
| 管 理 用 機 器 備 品     | 70,081,572     | 56,909,403     | 13,172,169    |
| 図 書               | 4,695,457,862  | 4,688,795,756  | 6,662,106     |
| 車 両               | 1,026,241      | 1,299,366      | △ 273,125     |
| 特 定 資 産           | 9,693,334,960  | 9,748,530,916  | △ 55,195,956  |
| 第3号基本金引当特定資産      | 396,463,916    | 396,463,916    | 0             |
| 退職給与引当特定資産        | 2,500,000,000  | 2,500,000,000  | 0             |
| 減価償却引当特定資産        | 6,796,871,044  | 6,852,067,000  | △ 55,195,956  |
| そ の 他 の 固 定 資 産   | 5,894,070,217  | 6,178,531,555  | △ 284,461,338 |
| 借 地 権             | 115,733,115    | 115,733,115    | 0             |
| 電 話 加 入 権         | 8,681,035      | 8,681,035      | 0             |
| 有 価 証 券           | 5,763,179,067  | 6,044,876,405  | △ 281,697,338 |
| 長 期 貸 付 金         | 6,477,000      | 9,241,000      | △ 2,764,000   |
| 流 動 資 産           | 8,267,146,244  | 7,688,474,195  | 578,672,049   |
| 現 金 預 金           | 7,650,870,127  | 6,878,076,280  | 772,793,847   |
| 未 収 入 金           | 473,929,696    | 446,693,272    | 27,236,424    |
| 短 期 貸 付 金         | 2,232,000      | 3,060,000      | △ 828,000     |
| 短 期 有 価 証 券       | 70,023,200     | 298,797,000    | △ 228,773,800 |
| 立 替 金             | 1,213,369      | 235,189        | 978,180       |
| 前 払 金             | 68,877,852     | 61,612,454     | 7,265,398     |
| 資 産 の 部 合 計       | 53,604,285,622 | 53,956,751,330 | △ 352,465,708 |

| 負債の部                  |                  |                  |               |
|-----------------------|------------------|------------------|---------------|
| 科 目                   | 本 年 度 末          | 前 年 度 末          | 増 減           |
| 固 定 負 債               | 5,202,974,693    | 5,290,525,877    | △ 87,551,184  |
| 長 期 借 入 金             | 666,600,000      | 722,150,000      | △ 55,550,000  |
| 長 期 未 払 金             | 25,343,437       | 15,655,586       | 9,687,851     |
| 退 職 給 与 引 当 金         | 4,511,031,256    | 4,552,720,291    | △ 41,689,035  |
| 流 動 負 債               | 3,589,749,451    | 3,144,216,782    | 445,532,669   |
| 短 期 借 入 金             | 55,550,000       | 55,550,000       | 0             |
| 未 払 金                 | 715,257,171      | 842,707,088      | △ 127,449,917 |
| 前 受 金                 | 1,742,268,360    | 1,688,517,545    | 53,750,815    |
| 預 り 金                 | 680,201,169      | 557,442,149      | 122,759,020   |
| 賞 与 引 当 金             | 396,472,751      | 0                | 396,472,751   |
| 負 債 の 部 合 計           | 8,792,724,144    | 8,434,742,659    | 357,981,485   |
| 純資産の部                 |                  |                  |               |
| 科 目                   | 本 年 度 末          | 前 年 度 末          | 増 減           |
| 基 本 金                 | 56,196,253,858   | 55,983,284,848   | 212,969,010   |
| 第 1 号 基 本 金           | 54,938,789,942   | 54,725,820,932   | 212,969,010   |
| 第 3 号 基 本 金           | 396,463,916      | 396,463,916      | 0             |
| 第 4 号 基 本 金           | 861,000,000      | 861,000,000      | 0             |
| 繰 越 収 支 差 額           | △ 11,384,692,380 | △ 10,461,276,177 | △ 923,416,203 |
| 翌 年 度 繰 越 収 支 差 額     | △ 11,384,692,380 | △ 10,461,276,177 | △ 923,416,203 |
| 純 資 産 の 部 合 計         | 44,811,561,478   | 45,522,008,671   | △ 710,447,193 |
| 科 目                   | 本 年 度 末          | 前 年 度 末          | 増 減           |
| 負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計 | 53,604,285,622   | 53,956,751,330   | △ 352,465,708 |

#### 4. 学校法人の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の整備及び運用状況の概要

##### （1）関係する決議の概要

2024 年 12 月 10 日に開催した理事会において、私立学校法第 36 条第 3 項第 5 号及び同法施行規則第 13 条に規定する「理事の職務執行が法令・寄附行為に適合すること及び業務の適正を確保するための体制」の整備に関し、「内部統制システム整備の基本方針」を決定した。また、これに関連し、学校法人の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）の整備のため、2024 年度理事会において以下の規程の制定等を行い、2025 年度から運用を開始するとともに、必要に応じて改正を行っている。

- ・ 制定

内部統制システム整備の基本方針

学校法人日本女子大学内部統制規則

学校法人日本女子大学リスク管理基本規程

理事の職務権限規程

学校法人日本女子大学コンプライアンス推進規程

- ・ 改正

学校法人日本女子大学理事会及び常任理事会の運営に関する規程

文書規程

学校法人日本女子大学監事監査規程

学校法人日本女子大学公益通報に関する規程

役員候補者及び評議員候補者に関する規程

学校法人日本女子大学内部監査規程

学校法人日本女子大学役員報酬規程

##### （2）体制整備及び運用状況の概要

###### ① 理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

理事会、評議員会等の重要会議の議事録その他理事の職務執行に係る情報については、寄附行為及び「文書規程」に基づき、適切に作成、保存及び管理することを定めている。

###### ② 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

本法人において、発生又はそのおそれがある事象に伴う危機に迅速かつ的確に対処するため、「学校法人日本女子大学リスク管理基本規程」を制定し、リスク管理体制及び対処方法を定め、学生、教職員及び本学関係者等の安全確保を図るとともに、本学の社会的な責任を果たすこととしている。

③ 理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

寄附行為及び「学校法人日本女子大学理事会及び常任理事会の運営に関する規程」に基づき、理事会、評議員会及び常任理事会の役割、権限及び体制を明確にしている。理事については、寄附行為及び「理事の職務権限規程」に基づき、業務を執行する理事の担当業務を明確化し、事業運営の適切かつ迅速な推進を図っている。

④ 職員の職務の執行が法令及び寄附行為に適合することを確保するための体制

「学校法人日本女子大学コンプライアンス推進規程」を定め、当該規程に基づき、「学校法人日本女子大学コンプライアンス推進に係る基本方針」を策定、学内外に公開し、職務に対する法令や寄附行為、諸規程の遵守に対する意識の定着を図った。

⑤ 監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制等

「学校法人日本女子大学監事監査規程」において、監事が行う業務等について定めるとともに、常勤監事と非常勤監事との「監事会」開催による監事同士の監査業務や情報の共有はもとより、理事長と常勤監事の定期的な面談や、監事、会計監査人、内部監査室における三様監査連絡会を年2回開催することで、各部門での監査内容に関する情報や報告、意見交換を行い、業務の適正さと監査の実効性を確保している。

## 5. 附属明細書

私立学校法施行規則第29条第3項で定める事業報告書の附属明細書は、事業報告書の内容を補足する重要な事項をその内容としなければならない。2025年度事業報告書において、事業報告書の内容を補足する重要な事項はない。

以 上



学校  
法人

日本女子大学

JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY

〒112-8681 東京都文京区目白台 2-8-1

 [@Official.JWU](https://www.facebook.com/Official.JWU)  [@japan\\_womens\\_university](https://www.instagram.com/japan_womens_university)  [@JWU\\_official](https://twitter.com/JWU_official)